

東京都歯科保健目標「いい歯東京」
達成度調査報告書 概要

平成27年8月

東京都福祉保健局医療政策部

目 次

I	東京都歯科保健目標「いい歯東京」達成度の状況	
1	調査結果のポイント	1
2	調査一覧	1
3	国における指標との比較	2
4	今後の取組	2
II	東京都歯科保健目標達成度調査概要	
1	調査目的	3
2	幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査	3
3	東京都歯科診療所患者調査	13
4	介護保険施設等における口腔ケア等実態調査	24
5	かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査	26
6	区市町村における歯科保健医療事業に関する調査	30
III	参考資料	
1	歯科保健目標「いい歯東京」	32
2	東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況について	33

本報告書（概要）は、東京都歯科保健目標「いい歯東京」達成度調査報告書より、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の指標にかかる部分について抜粋した。

I 東京都歯科保健目標「いい歯東京」達成度の状況

東京都では、都民のすべてが歯と口腔の健康を保ち、健康寿命を延ばして豊かな生活ができるよう、東京都歯科保健目標「いい歯東京」を策定し、様々な施策を行っているところである。

現在の歯科保健目標は、平成27年度を最終年度としていることから、目標の達成状況について調査を実施した。その結果を以下に示す。

1 調査結果のポイント

(1) 達成状況のまとめ

「う蝕のない者の割合(3歳)」は87.4%、「一人平均う歯数(12歳)」は0.93歯、「24歯以上有する者の割合(60歳)」は70.0%、「8020を達成している都民の割合(80歳)」54.7%となり、口腔内の状況はすべての年齢層で向上し、目標を達成した。

一方、「歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳)」は目標値に及ばなかったが、歯や口腔の満足度のうち「噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がない者」は増加したことから、口腔機能に関する満足度は向上していることがうかがえる。

(2) 全体目標の達成状況

全体目標のうち、「80歳で自分の歯を20本以上持つ者の割合(8020達成者)」は54.7%であり、目標の「50%以上」を達成した。また、前回調査(平成21年度)よりも14.9ポイント増加した。

一方、「歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳以上)」は54.8%であり、目標の「増やす(基準値:57.9%)」にはやや及ばなかった。

(3) 個別目標の達成状況

それぞれのライフステージにおける口腔内の状態については、目標を達成した。

特に、「60歳で自分の歯を24本以上持つ者の割合」は前回調査によりも6.6ポイント増加し、8020達成者の割合の結果と合わせ、高齢者の口腔内の状態は向上した。

一方、それぞれのライフステージにおける都民の知識と行動の目標については、目標を達成した項目が半数に満たなかった。

2 調査一覧

	調査名	調査内容	調査地区	回答数	実施時期
1	幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査	区市町村や学校における歯科健診結果のデータ及び幼児・児童・生徒に対する意識調査	都内全域	26,442人	10月
2	東京都歯科診療所患者調査	歯科診療所に来院する患者(成人)の口腔内診査及び意識調査	都内全域	10,356人	9～10月
3	介護保険施設等における口腔ケア等実態調査	特養、養護老人ホーム、訪問看護ステーション等に対する口腔ケア等に関する調査	都内全域	1,084施設	5～6月
4	かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査	歯科診療所に対するかかりつけ歯科医機能の調査	都内全域	554施設	9～10月
5	島しょ地区歯科疾患実態調査	①島しょ地区の全町村の保育所、小中学校の幼児・児童・生徒に対する意識調査	①全島	①2,158人	①10月
		②神津島及び八丈島の成人の口腔内診査及び意識調査	②神津島 八丈島	②436人	②5月、7月
6	区市町村における歯科保健医療事業に関する調査	区市町村の歯科保健医療に関する事業の取組み状況調査	都内全域	62区市町村	1月

3 国における指標との比較

東京都歯科保健目標「いい歯東京」の指標のうち、国の指標（「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に関する目標等について）により示された具体的指標と共通するものについて、比較を行ったところ、以下のとおりであった。

事項（基本的事項・いい歯東京）	目標値		現状値 （東京都）
	国 （平成 34 年度）	東京都 （平成 27 年度）	
う蝕のない者の割合（3 歳児）	90%	85.0%	87.4% ※1
24 歯以上の自分の歯を有する者の割合 （60 歳）	70%	70%以上	70.0% ※2

※1 平成 25 年度歯科健康診査実績（「東京の歯科保健」）

※2 平成 26 年度診療所患者調査

4 今後の取組

（1）東京都歯科保健目標「いい歯東京」の計画年次

東京都歯科保健目標「いい歯東京」については、平成 23 年度から 27 年度までの計画となっている。一方、国は、平成 24 年度に「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」を示し、平成 34 年度までの目標値を定め、その中で 5 年後に中間評価を行うとした。また、東京都保健医療計画や東京都健康推進プランとの調和のとれた計画とするため、東京都歯科保健目標の計画年次を平成 29 年度までとする。

（2）東京都歯科保健目標「いい歯東京」の取組

今回実施した達成度調査の結果を踏まえ、東京都歯科保健目標における目標値を達成していない項目については、引き続き、達成に向けて取組を進めていく。

新たな取組として、若い世代の歯科保健行動や意識を高めるための普及啓発を行い、生涯にわたる「歯と口腔の満足度の向上」をさらに目指していく。

II 東京都歯科保健目標達成度調査概要

1 調査目的

都民の歯科疾患の実態及び歯科保健行動等を把握し、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、新たな歯科保健目標を策定するための基礎資料を得ることを目的とし、調査を実施した。

2 幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査

(1) 対象及び方法

1歳6か月児歯科健康診査を受診した幼児の保護者を対象に歯科保健行動等の質問紙調査を実施した。また、3歳児歯科健康診査を受診した幼児の保護者を対象に歯科保健行動等の質問紙調査を実施するとともに、口腔内診査結果を把握した。さらに、幼稚園等の5歳児クラス在籍児の保護者を対象に、歯科保健行動等の質問紙調査を実施した。

学齢期については、小学校1年生在籍者(6歳)の保護者、小学校4年生在籍者(9歳)、中学校1年生在籍者(12歳)を対象に、歯科保健行動等の質問紙調査を実施した。

(2) 調査結果

ア 調査数

本調査における調査者数は、以下のとおりであった。

表1 調査数

対象年齢	(人)		
	特別区	多摩地区	総数
1歳6か月	4,108	2,200	6,308
	65.1%	34.9%	100%
3歳	4,464	2,445	6,909
	64.6%	35.4%	100%
5歳	4,138	2,580	6,718
	61.6%	38.4%	100%
6歳	889	1,027	1,916
	46.4%	53.6%	100%
9歳	856	1,117	1,973
	43.4%	56.6%	100%
12歳	1,093	1,525	2,618
	41.7%	58.3%	100%
総計	15,548	10,894	26,442
	58.8%	41.2%	100%

イ 甘味飲料の摂取状況

子供が、「ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲むか」との設問について、以下のような結果となった。

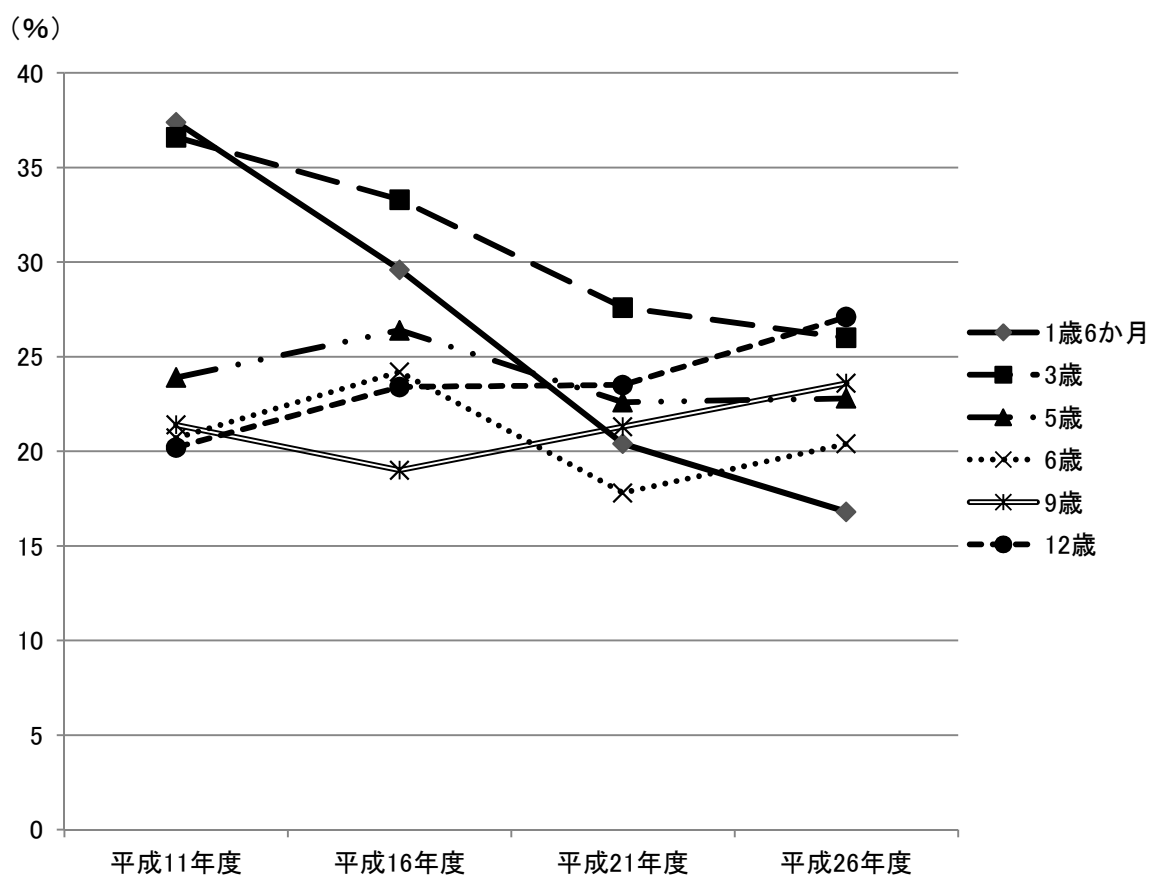
甘味飲料の摂取状況は、年齢差はあまり大きくなく、「ほぼ毎日」の割合は1歳6か月が16.8%とやや低く、他の年齢層はいずれも20%台であった。

「ほぼ毎日」の経年的な推移をみると、甘味食品と同様、低い年齢層では減少傾向が明らかで、平成11年度から平成26年度で1歳6か月が6割近く、3歳が3割近く減少していた。しかしながら平成26年度の3歳の値は26.0%で「いい歯東京」の目標値(20%以下)には達しなかった。一方、高い年齢層では甘味食品と同様、増加傾向にあり、12歳では3割以上増加していた。

表2 ほぼ毎日、甘味飲料を摂取している者の割合の推移

年齢	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成26年度
1歳6か月	37.4	29.6	20.4	16.8
3歳	36.6	33.3	27.6	26.0
5歳	23.9	26.4	22.6	22.8
6歳	20.7	24.2	17.8	20.4
9歳	21.4	19.0	21.3	23.6
12歳	20.2	23.4	23.5	27.1

図1 ほぼ毎日、甘味飲料を摂取している者の割合の推移



ウ 歯や口腔の観察状況

歯や口腔の観察状況については、1歳6か月、3歳、5歳、6歳は「週1回以上」は8割前後であったが、9歳、12歳は「週1回以上」が4割強であった。特別区と多摩地区の差はほとんどなかった。

「週1回以上観察している」と回答した割合の推移については、1歳6か月から6歳までは全体的に漸増傾向を示したが、平成26年度の3歳の値は81.2%で「いい歯東京」の目標値(90%以上)には達しなかった。

表3 歯や口腔の観察状況

(人)

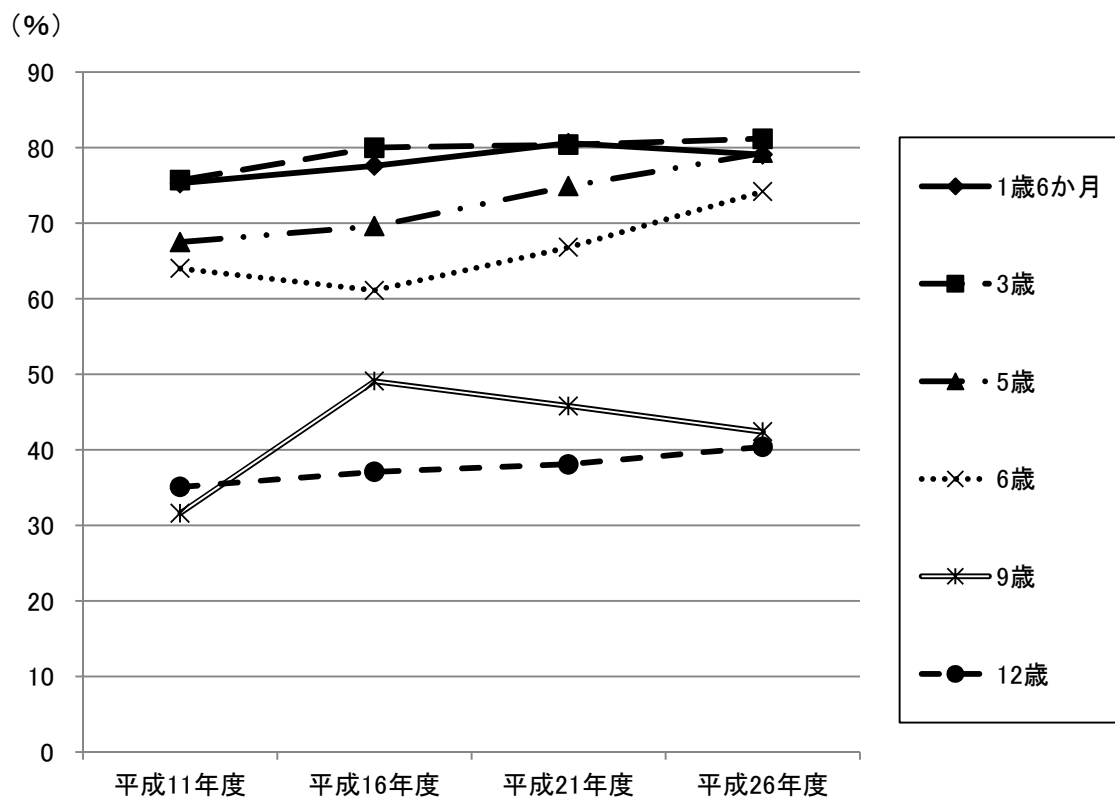
	地区		年齢	週1回以上	月1回以上	ほとんど ない	無回答
人数	特別区	保護者による観察	1歳6か月	3,278	406	393	31
			3歳	3,695	373	363	33
			5歳	3,289	547	291	11
			6歳	664	145	79	1
		本人による観察	9歳	366	222	264	4
			12歳	454	308	326	5
	多摩地区	保護者による観察	1歳6か月	1,713	237	234	16
			3歳	1,913	278	239	15
			5歳	2,041	347	184	8
			6歳	758	167	102	0
		本人による観察	9歳	470	283	361	3
			12歳	604	455	452	14
全体	保護者による観察	1歳6か月	4,991	643	627	47	
		3歳	5,608	651	602	48	
		5歳	5,330	894	475	19	
		6歳	1,422	312	181	1	
	本人による観察	9歳	836	505	625	7	
		12歳	1,058	763	778	19	
%	特別区	保護者による観察	1歳6か月	79.8%	9.9%	9.6%	0.8%
			3歳	82.8%	8.4%	8.1%	0.7%
			5歳	79.5%	13.2%	7.0%	0.3%
			6歳	74.7%	16.3%	8.9%	0.1%
		本人による観察	9歳	42.8%	25.9%	30.8%	0.5%
			12歳	41.5%	28.2%	29.8%	0.5%
	多摩地区	保護者による観察	1歳6か月	77.9%	10.8%	10.6%	0.7%
			3歳	78.2%	11.4%	9.8%	0.6%
			5歳	79.1%	13.4%	7.1%	0.3%
			6歳	73.8%	16.3%	9.9%	0.0%
		本人による観察	9歳	42.1%	25.3%	32.3%	0.3%
			12歳	39.6%	29.8%	29.6%	0.9%
全体	保護者による観察	1歳6か月	79.1%	10.2%	9.9%	0.7%	
		3歳	81.2%	9.4%	8.7%	0.7%	
		5歳	79.3%	13.3%	7.1%	0.3%	
		6歳	74.2%	16.3%	9.4%	0.1%	
	本人による観察	9歳	42.4%	25.6%	31.7%	0.4%	
		12歳	40.4%	29.1%	29.7%	0.7%	

表 4 週 1 回以上、子供の歯や口腔の観察をしている保護者・本人による観察の割合の推移

(%)

	年齢	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
保護者による観察	1 歳 6 か月	75.3	77.6	80.6	79.1
	3 歳	75.7	80.0	80.4	81.2
	5 歳	67.5	69.6	74.9	79.3
	6 歳	64.0	61.1	66.8	74.2
本人による観察	9 歳	31.6	49.1	45.8	42.4
	12 歳	35.1	37.1	38.1	40.4

図 2 週 1 回以上、子供の歯や口の観察をしている保護者・本人による観察の割合の推移



エ フッ化物配合歯磨剤の使用状況

子供が「歯をみがくときにフッ素入りの歯みがき剤を使うか」との設問については、3歳、5歳、6歳では7割前後であった。歯磨剤を使用しない割合は、低年齢ほど高く、3歳は23.3%、5歳は12.4%、6歳では12.2%であった。本人が回答した年齢層ではフッ化物配合歯磨剤使用者が9歳では57.6%、12歳で29.8%と低かった。一方、「歯みがき剤を使っているがフッ化物配合かどうか不明」が9歳で26.3%、12歳で60.6%と高かった。

フッ化物配合歯磨剤使用者の割合の推移については、3歳、5歳、6歳、9歳では増加傾向が顕著であった。「いい歯東京」の目標値が定められている3歳では66.8%と、あと少しで目標値(70%以上)達成のレベルまで増加していた。しかしながら12歳では平成21年度以降、減少していた。

表5 フッ化物配合歯磨剤の使用状況

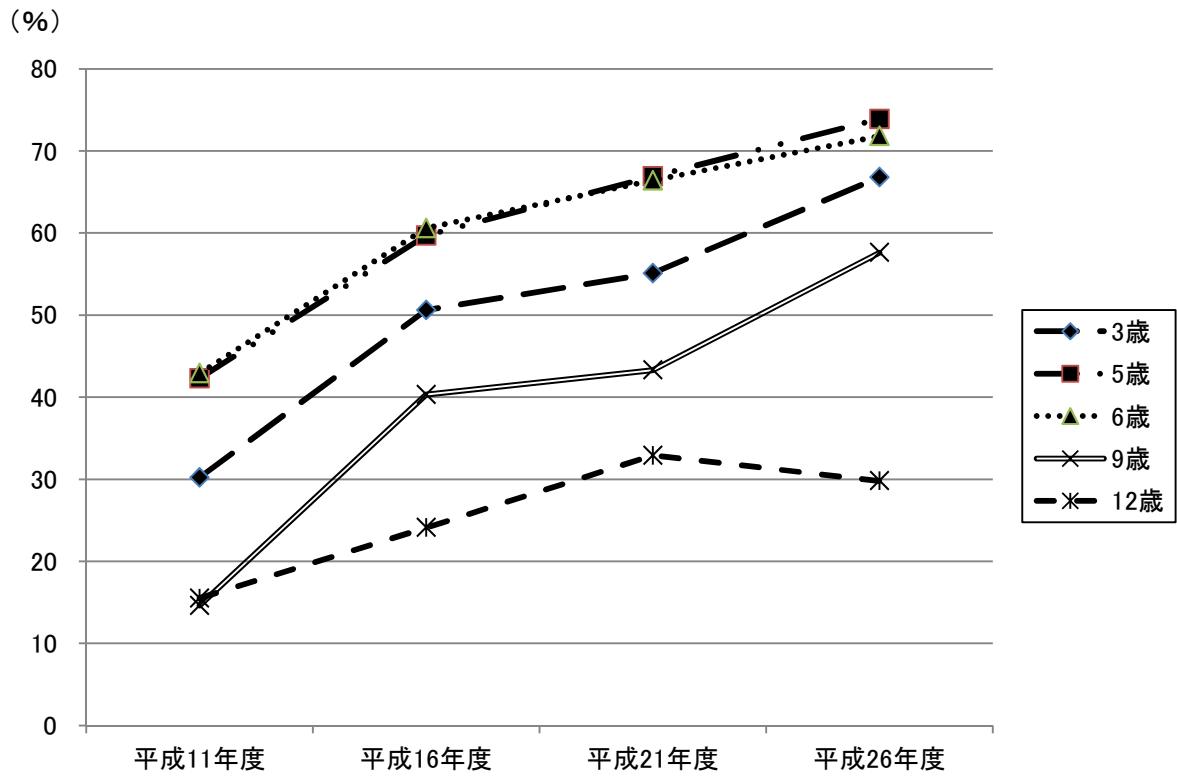
(人)

	地区	アンケート回答	年齢	歯みがき剤使用							
				フッ素入り				フッ素入りか不明	フッ素入りではない	歯みがき剤は使用しない	無回答
				全体	使用頻度						
					毎日	ときどき	無回答				
人数	特別区	保護者が回答	3歳	3,032	2,592	351	89	282	129	1,003	18
			5歳	3,118	2,727	315	76	312	229	471	8
			6歳	636	559	65	12	87	72	90	4
		小児本人が回答	9歳	468	384	55	29	239	88	59	2
			12歳	361	295	45	21	630	47	45	10
	多摩地区	保護者が回答	3歳	1,584	1,377	181	26	144	97	608	12
			5歳	1,845	1,610	187	48	237	134	360	4
			6歳	739	644	69	26	71	73	144	0
		小児本人が回答	9歳	668	546	77	45	279	75	92	3
			12歳	418	325	54	39	957	55	88	7
	全体	保護者が回答	3歳	4,616	3,969	532	115	426	226	1,611	30
			5歳	4,963	4,337	502	124	549	363	831	12
6歳			1,375	1,203	134	38	158	145	234	4	
小児本人が回答		9歳	1,136	930	132	74	518	163	151	5	
		12歳	779	620	99	60	1,587	102	133	17	
%	特別区	保護者が回答	3歳	67.9%	58.1%	7.9%	2.0%	6.3%	2.9%	22.5%	0.4%
			5歳	75.4%	65.9%	7.6%	1.8%	7.5%	5.5%	11.4%	0.2%
			6歳	71.5%	62.9%	7.3%	1.3%	9.8%	8.1%	10.1%	0.4%
		小児本人が回答	9歳	54.7%	44.9%	6.4%	3.4%	27.9%	10.3%	6.9%	0.2%
			12歳	33.0%	27.0%	4.1%	1.9%	57.6%	4.3%	4.1%	0.9%
	多摩地区	保護者が回答	3歳	64.8%	56.3%	7.4%	1.1%	5.9%	4.0%	24.9%	0.5%
			5歳	71.5%	62.4%	7.2%	1.9%	9.2%	5.2%	14.0%	0.2%
			6歳	72.0%	62.7%	6.7%	2.5%	6.9%	7.1%	14.0%	0.0%
		小児本人が回答	9歳	59.8%	48.9%	6.9%	4.0%	25.0%	6.7%	8.2%	0.3%
			12歳	27.4%	21.3%	3.5%	2.6%	62.8%	3.6%	5.8%	0.5%
	全体	保護者が回答	3歳	66.8%	57.4%	7.7%	1.7%	6.2%	3.3%	23.3%	0.4%
			5歳	73.9%	64.6%	7.5%	1.8%	8.2%	5.4%	12.4%	0.2%
6歳			71.8%	62.8%	7.0%	2.0%	8.2%	7.6%	12.2%	0.2%	
小児本人が回答		9歳	57.6%	47.1%	6.7%	3.8%	26.3%	8.3%	7.7%	0.3%	
		12歳	29.8%	23.7%	3.8%	2.3%	60.6%	3.9%	5.1%	0.6%	

表 6 フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合の推移

年齢	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
3 歳	30.2	50.6	55.1	66.8
5 歳	42.3	59.7	66.9	73.9
6 歳	42.9	60.6	66.4	71.8
9 歳	14.6	40.3	43.3	57.6
12 歳	15.5	24.1	32.9	29.8

図 3 フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合の推移



オ かかりつけ歯科医院の状況

「子供のかかりつけの歯科医院を決めているか」との設問について、かかりつけ歯科医院を持つ割合は年齢による違いが顕著であった。5歳、6歳、9歳では8割前後と高かったが、年齢が低い層と高い層で低く、1歳6か月では2割弱、12歳では6割弱であった。特別区と多摩地区を比較すると、かかりつけ歯科医院を持つ割合は特別区のほうが高かった。

かかりつけ歯科医院を持つ割合の推移としては、平成11年度以降、全般的に増加傾向にあった。平成21年度から平成26年度の推移をみると、3歳では44.9%から48.5%と増加が認められたが、目標値(60%以上)には及ばなかった。また、12歳では58.9%から57.6%と減少し、こちらも目標値(90%以上)には遠く及ばなかった。

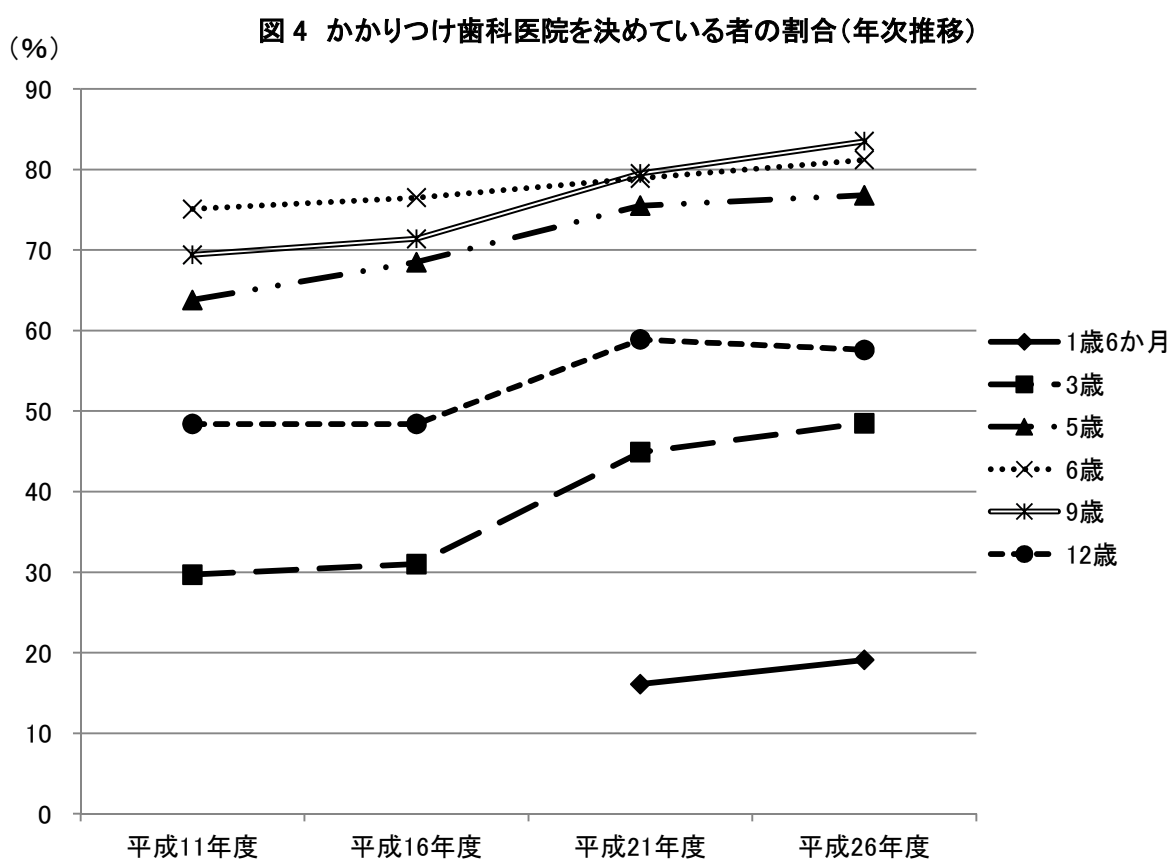
表7 かかりつけ歯科医院の有無

(人)

	地区	アンケート回答	年齢	人数		
				ある	ない	無回答
人数	特別区	保護者が回答	1歳6か月	858	3,243	7
			3歳	2,359	2,098	7
			5歳	3,325	810	3
			6歳	753	135	1
		小児本人が回答	9歳	714	139	3
			12歳	701	378	14
	多摩地区	保護者が回答	1歳6か月	345	1,823	32
			3歳	992	1,441	12
			5歳	1,836	742	2
			6歳	802	223	2
		小児本人が回答	9歳	934	177	6
			12歳	808	710	7
全体	保護者が回答	1歳6か月	1203	5066	39	
		3歳	3,351	3,539	19	
		5歳	5,161	1,552	5	
		6歳	1,555	358	3	
	小児本人が回答	9歳	1,648	316	9	
		12歳	1,509	1,088	21	
%	特別区	保護者が回答	1歳6か月	20.9%	78.9%	0.2%
			3歳	52.8%	47.0%	0.2%
			5歳	80.4%	19.6%	0.1%
			6歳	84.7%	15.2%	0.1%
		小児本人が回答	9歳	83.4%	16.2%	0.4%
			12歳	64.1%	34.6%	1.3%
	多摩地区	保護者が回答	1歳6か月	15.7%	82.9%	1.5%
			3歳	40.6%	58.9%	0.5%
			5歳	71.2%	28.8%	0.1%
			6歳	78.1%	21.7%	0.2%
		小児本人が回答	9歳	83.6%	15.8%	0.5%
			12歳	53.0%	46.6%	0.5%
全体	保護者が回答	1歳6か月	19.1%	80.3%	0.6%	
		3歳	48.5%	51.2%	0.3%	
		5歳	76.8%	23.1%	0.1%	
		6歳	81.2%	18.7%	0.2%	
	小児本人が回答	9歳	83.5%	16.0%	0.5%	
		12歳	57.6%	41.6%	0.8%	

表 8 かかりつけ歯科医院を決めている者の割合(年次推移)

年齢	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
1 歳 6 か月	-	-	16.1	19.1
3 歳	29.7	31.0	44.9	48.5
5 歳	63.8	68.5	75.5	76.8
6 歳	75.1	76.5	78.9	81.2
9 歳	69.4	71.4	79.5	83.5
12 歳	48.4	48.4	58.9	57.6



カ ゆっくりよく噛む習慣化(9歳、12歳)

9歳、12歳における「ゆっくりよく噛むようにしているか」との設問については、「いつも」と「だいたい」を合わせた割合は、9歳が59.3%、12歳が52.3%であり、どちらの年齢も男子より女子のほうが高率を示した。また、平成21年度から平成26年度における推移について、「いい歯東京」の目標は、この割合を「増やす」ことであり、12歳はやや増加し目標を達成したが、9歳では変化がなく、目標達成とはいえなかった。

表9 ゆっくりよく噛んで食べる習慣をもつ者の推移(9歳、12歳)

年齢		いつも	だいたい	計
9歳	平成21年度	17.4	41.9	59.3
	平成26年度	18.7	40.6	59.3
12歳	平成21年度	9.6	40.7	50.3
	平成26年度	9.6	42.7	52.3

表10 ゆっくり噛んで食べる習慣(9歳、12歳)

	性別	年齢					無回答
			いつも	だいたい	ときどき	ゆっくりかまない	
人数	男子	9歳	148	353	305	159	10
		12歳	127	508	538	168	10
	女子	9歳	216	445	259	60	4
		12歳	125	601	431	85	11
	不明	9歳	4	4	4	2	0
		12歳	0	10	1	2	1
	全体	9歳	368	802	568	221	14
		12歳	252	1,119	970	255	22
%	男子	9歳	15.2%	36.2%	31.3%	16.3%	1.0%
		12歳	9.4%	37.6%	39.8%	12.4%	0.7%
	女子	9歳	22.0%	45.2%	26.3%	6.1%	0.4%
		12歳	10.0%	48.0%	34.4%	6.8%	0.9%
	不明	9歳	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%
		12歳	0.0%	71.4%	7.1%	14.3%	7.1%
	全体	9歳	18.7%	40.6%	28.8%	11.2%	0.7%
		12歳	9.6%	42.7%	37.1%	9.7%	0.8%

キ 丁寧な歯磨きの状況

「歯を1本ずつ丁寧に時間をかけて磨く」の実践状況（9歳、12歳）については、「ほぼ毎日」実践している割合は、9歳が40.4%、12歳が53.1%で、女子のほうが男子よりも高率を示した。

平成16年度から平成26年度における推移について、「いい歯東京」の目標は、この割合を「増やす」ことであり、9歳は37.9%から40.4%、12歳は49.0%から53.1%で、ともに増加し、目標を達成した。

表11 丁寧な歯磨きの状況(9歳、12歳) (人)

	性別	年齢	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんど ない	無回答
人数	男子	9歳	354	212	230	160	19
		12歳	700	322	224	93	12
	女子	9歳	436	223	227	91	7
		12歳	688	326	167	54	18
	不明	9歳	8	2	2	1	1
		12歳	3	5	4	1	1
	全体	9歳	798	437	459	252	27
		12歳	1,391	653	395	148	31
%	男子	9歳	36.3%	21.7%	23.6%	16.4%	1.9%
		12歳	51.8%	23.8%	16.6%	6.9%	0.9%
	女子	9歳	44.3%	22.7%	23.1%	9.2%	0.7%
		12歳	54.9%	26.0%	13.3%	4.3%	1.4%
	不明	9歳	57.1%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%
		12歳	21.4%	35.7%	28.6%	7.1%	7.1%
	全体	9歳	40.4%	22.1%	23.3%	12.8%	1.4%
		12歳	53.1%	24.9%	15.1%	5.7%	1.2%

表12 「ほぼ毎日、丁寧に歯磨きをしている」割合の推移(9歳、12歳)
(%)

年齢	平成17年度	平成21年度	平成26年度
9歳	37.9	37.5	40.4
12歳	49.0	46.8	53.1

3 東京都歯科診療所患者調査

(1) 対象及び方法

都内の一般歯科診療所(193 施設)に、平成 26 年 10 月から 11 月に来院した 20 歳以上の患者を対象として、口腔内診査及び歯科保健行動等の質問紙調査を実施した。

(2) 調査結果

ア 調査数

本調査における調査者総数は 10,459 人であった。このうち、調査集計に用いることができたのは、10,356 人(男性 4,291 人、女性 6,065 人)であった。

表 13 調査数及び性・年齢階級

年齢階級	(人)		
	男性	女性	総数
20-24	123	200	323
	2.9%	3.3%	3.1%
25-34	345	523	868
	8.0%	8.6%	8.4%
35-44	623	899	1,522
	14.5%	14.8%	14.7%
45-54	780	1,054	1,834
	18.2%	17.4%	17.7%
55-64	836	1,032	1,868
	19.5%	17.0%	18.0%
65-74	996	1,442	2,438
	23.2%	23.8%	23.5%
75-84	503	809	1,312
	11.7%	13.3%	12.7%
85-	85	106	191
	2.0%	1.7%	1.8%
総計	4,291	6,065	10,356
	41.4%	58.6%	100%

イ 現在歯の状況

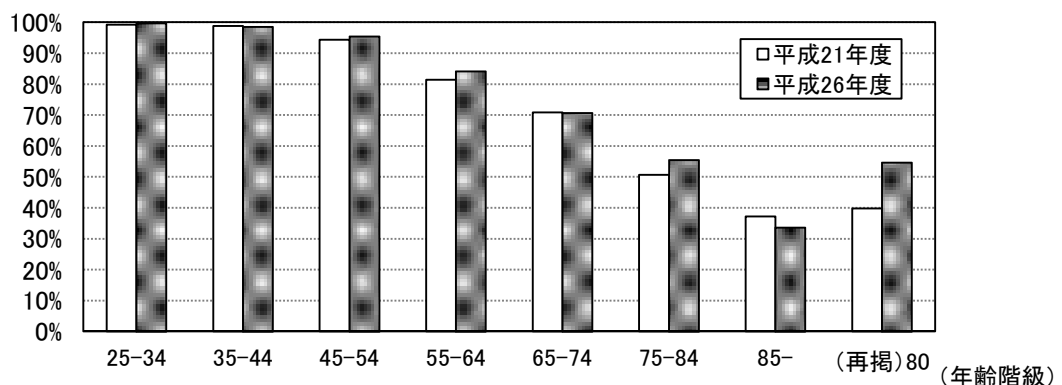
(ア) 8020達成者の割合

8020の達成者は54.7%と半数以上を占め、「いい歯東京」の目標値(50%以上)を達成した。また、前回調査(平成21年度)と比べると、39.8%から14.9%増加した。

表 14 現在歯数 20 歯以上の者の割合 (%)

年齢階級	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	(再掲)80
平成 21 年度	99.2	98.8	94.4	81.4	70.8	50.7	37.2	39.8
平成 26 年度	99.8	98.6	95.5	84.2	70.8	55.5	33.7	54.7

図 5 現在歯数 20 歯以上の者の割合



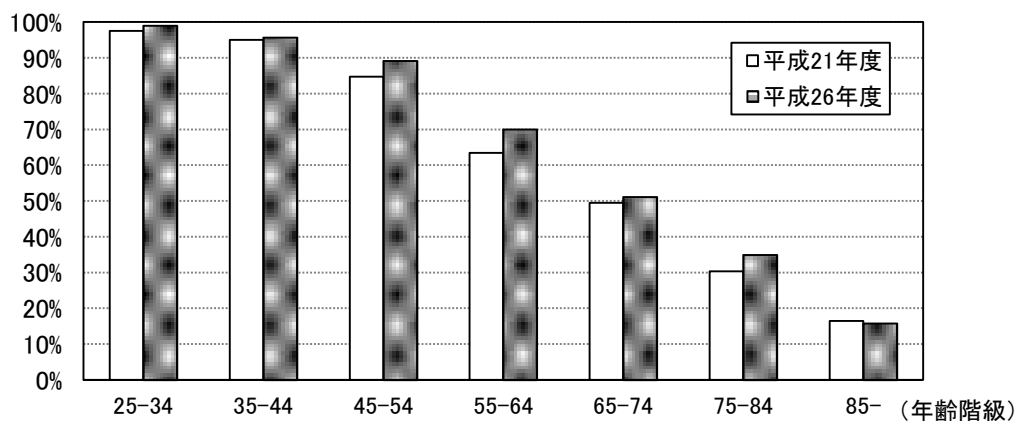
(イ) 現在歯数 24 歯以上の割合

85歳以上を除くすべての年齢階級で現在歯数24歯以上の割合が増加した。また、60歳(55歳～64歳)で24歯以上有する者も70.0%で、「いい歯東京」の目標値(70%以上)を達成した。

表 15 現在歯数 24 歯以上の者の割合 (%)

年齢階級	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
平成 21 年度	97.5	95.0	84.7	63.4	49.5	30.3	16.5
平成 26 年度	99.1	95.8	89.2	70.0	51.2	35.0	15.8

図 6 現在歯数 24 歯以上の者の割合



ウ 歯周組織の状況

35～64歳までと85歳以上で、前回(平成21年度)よりも重度歯周病のある者の割合は減少した。特に85歳以上では39.7%から30.4%へと改善した。一方、65～74歳はほぼ同じであるものの、75～84歳では増加が認められた。

40歳(35歳～44歳)で進行した歯周病に罹っている者(CPIコード3以上)は19.3%と、前回(平成21年度)の20.1%からは改善したものの、「いい歯東京」の目標値(18%以下)には届かなかった。

表 16 歯周組織の状況(年代別)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
あり	21	83	293	478	721	1,043	548	51
	6.5%	9.6%	19.3%	26.1%	38.8%	43.3%	43.9%	30.4%
なし	302	783	1,228	1,349	1,133	1,360	697	117
不明	0	2	1	6	4	6	2	0
総計	323	868	1,522	1,833	1,858	2,409	1,247	168

図 7 重度歯周病(ポケット5mm以上)の有無

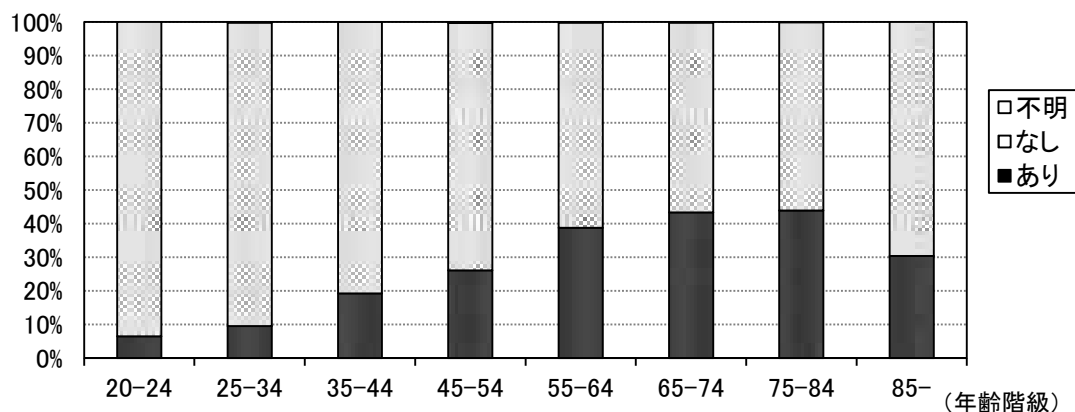
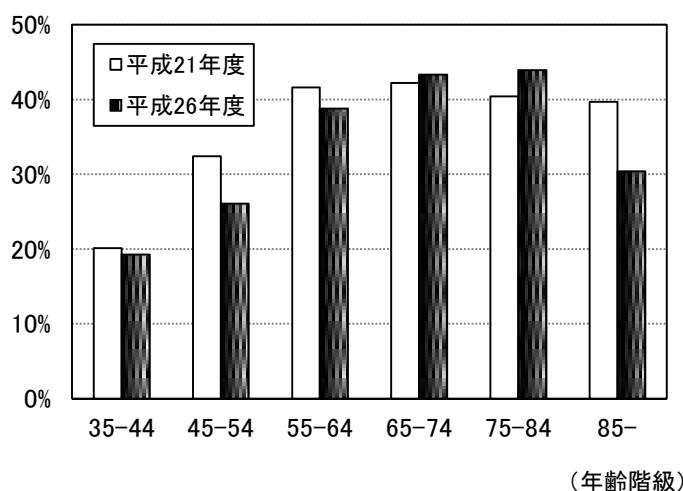


表 17 重度歯周病(ポケット5mm以上)ある者の割合(年代別)

年齢階級	平成21年度	平成26年度
35-44	20.1	19.3
45-54	32.4	26.1
55-64	41.6	38.8
65-74	42.2	43.3
75-84	40.4	43.9
85-	39.7	30.4

図 8 重度歯周病(ポケット5mm以上)ある者の割合(年代別)



エ 歯や口腔の満足度

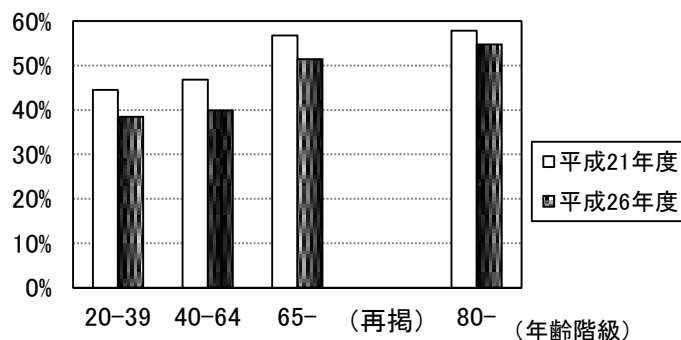
(ア) 歯や口腔の満足度の状況

「歯・口や入れ歯の状態にほぼ満足している」と回答した者は、前回(平成21年度)よりすべての年齢階級で減少した。80歳以上で「ほぼ満足している」と回答したのは、前回(平成21年度)の57.9%から54.8%へと減少し、「いい歯東京」の目標である、「増やす」は達成できなかった。

年齢が高い方が「ほぼ満足」と回答する割合が増加する傾向は、前回(平成21年度)と同様であった。

表 18, 図 9 歯・口や入れ歯の状態にほぼ満足している者の割合(前回比較)

(%)		
年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	44.5	38.5
40-64	46.8	39.9
65-	56.8	51.4
(再掲)		
80-	57.9	54.8



オ 丁寧な歯磨きの状況(歯間部清掃用器具を用いた清掃)

デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間部清掃用器具を用いた清掃習慣は、「ほぼ毎日」行う者のピークは、60～69歳、次いで70～79歳であったのに対し、「週に1～2日」までを含めると50～59歳が最頻値であった。40歳代から歯間部清掃用具の使用ニーズが高まるのに対し、日常的に使用しなければならなくなるのは高齢者になってからという結果であった。

40歳(35～44歳)で「週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者」は、62.0%で、前回(平成21年度)の62.3%をわずかに下回り、目標の80%以上を達成できなかった。

図 10 デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある(年代別)

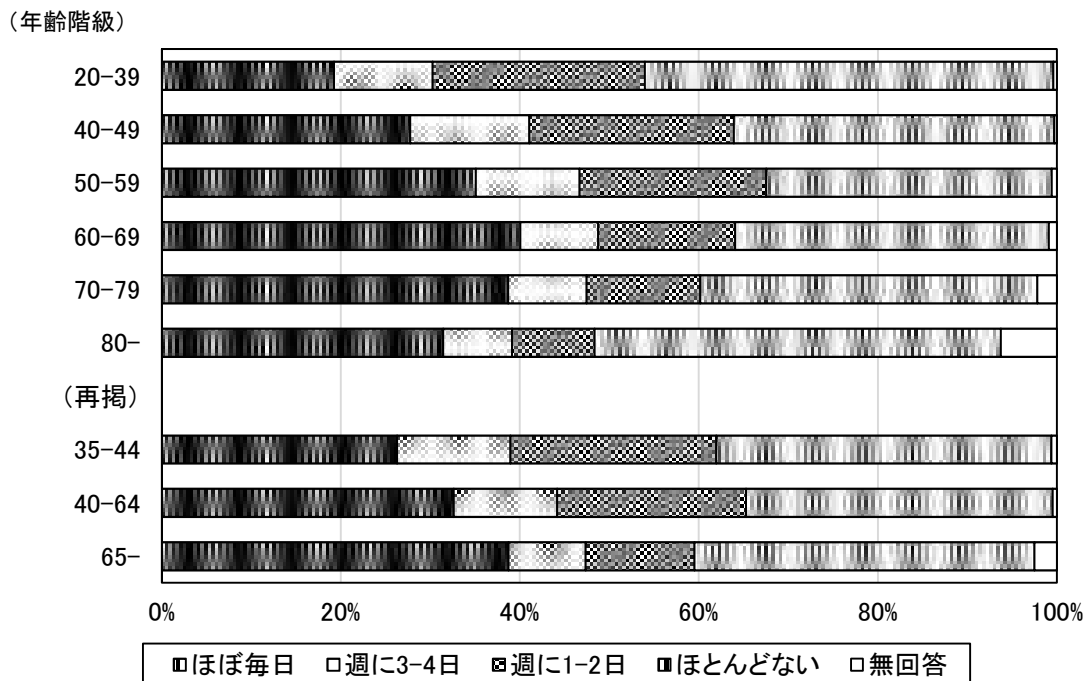
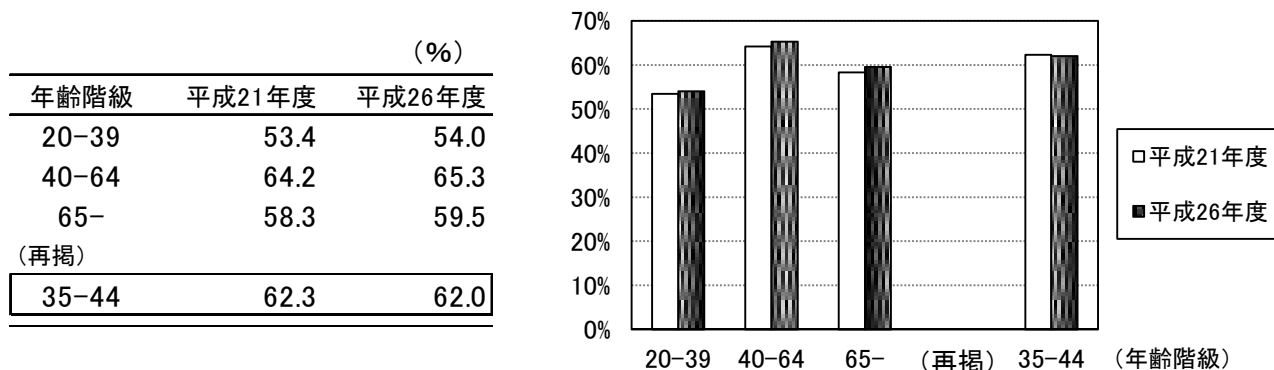


表 19,図 11 週 1 回以上、デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある者の割合(前回比較)



カ 定期健診又は歯石除去等

「かかりつけ歯科医で定期健診や歯石除去等の予防処置を受けている者」は、すべての年代で前回(平成21年度)より増加した。特に20～39歳で顕著で、2割程度増加した。40歳(35～44歳)では71.9%であり、「いい歯東京」の目標値(70%以上)を達成した。

図 12 定期健診又は歯石除去等を受けている(年代別)

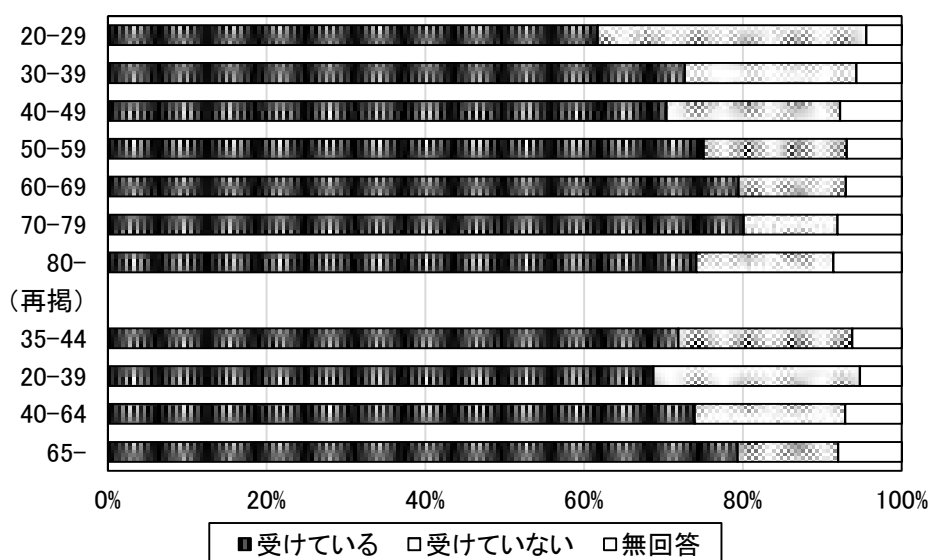
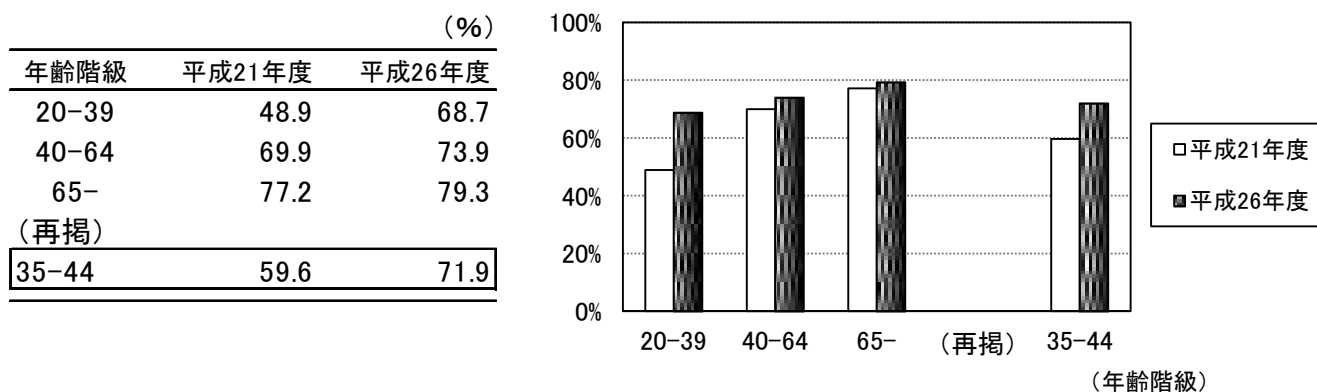


表 20,図 13 定期健診又は歯石除去等を受けている者の割合



キ 喫煙と歯周病の関係を知っている者

「喫煙が歯周病のリスク因子であることを知っている者」は、20歳以上で前回(平成21年度)の54.4%から54.2%へとわずかに減少し、「いい歯東京」の目標を達成しなかった。半数強の認知度でありながら、ほぼすべての年代で横ばいであった。

図 14 喫煙と歯周病の関係を知っている者(年代別)

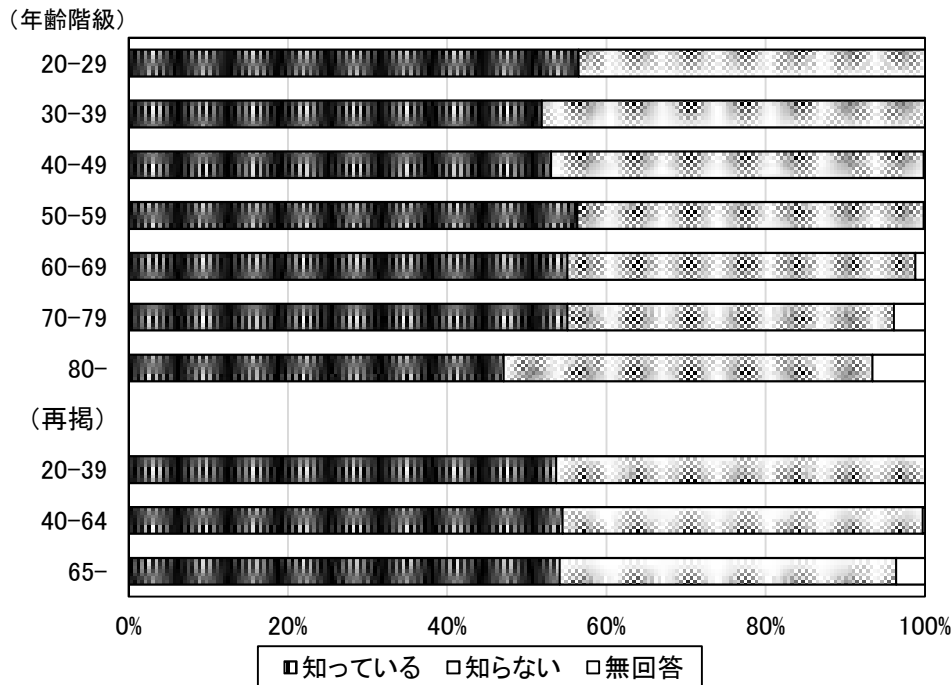
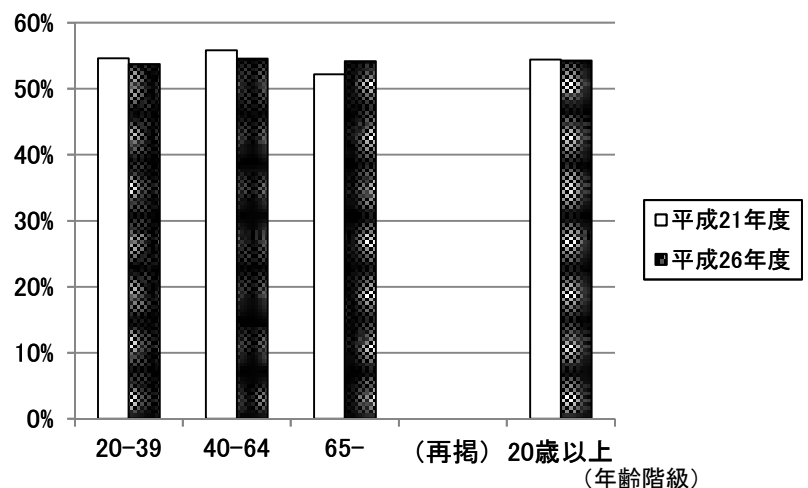


表 21, 図 15 喫煙が歯周病のリスク因子であることを知っている者の割合(前回比較)

年齢階級	平成21年度 (%)	平成26年度 (%)
20-39	54.6	53.7
40-64	55.8	54.5
65-	52.2	54.1
(再掲) 20歳以上	54.4	54.2



ク 糖尿病と歯周病の関係を知っている者

「糖尿病が歯周病のリスク因子であることを知っている者」は、20歳以上で前回（平成21年度）の42.3%から49.7%へと増加し、「いい歯東京」の目標を達成した。

図 16 糖尿病と歯周病の関係を知っている者（年代別）

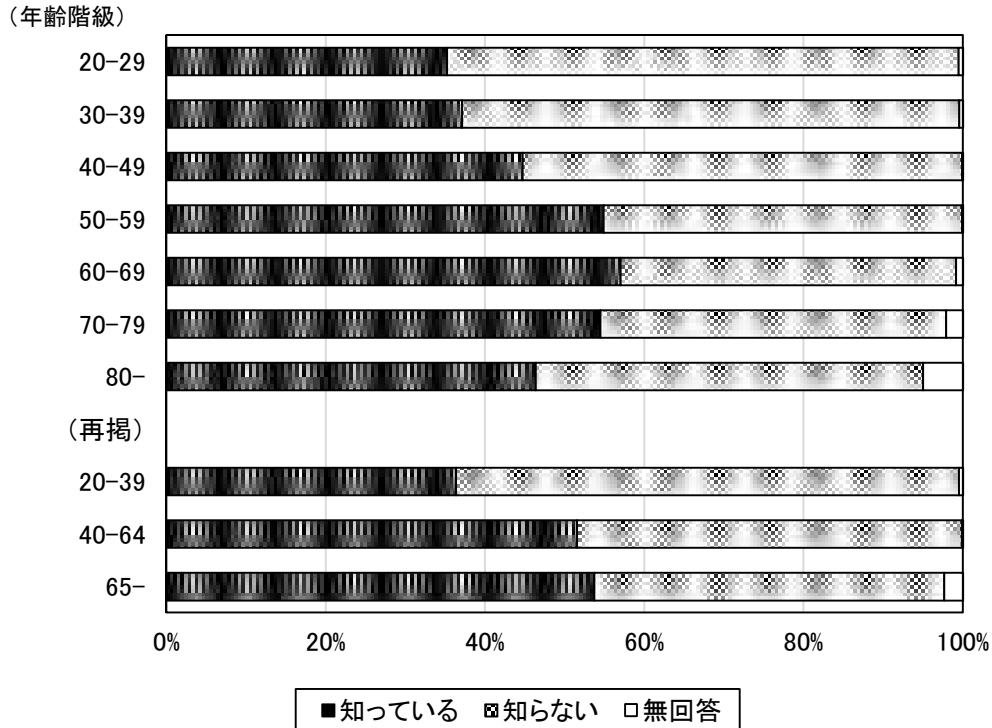
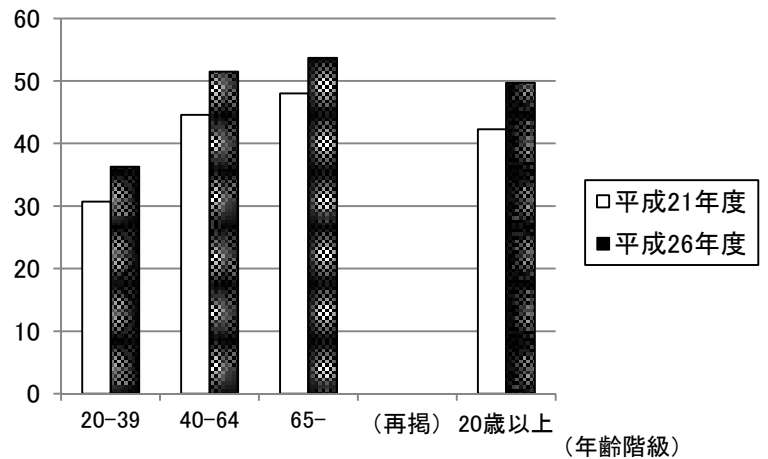


表 22, 図 17 糖尿病が歯周病のリスク因子であることを知っている（前回比較）

年齢階級	（%）	
	平成21年度	平成26年度
20-39	30.7	36.3
40-64	44.6	51.5
65-	48.0	53.7
(再掲)		
20歳以上	42.3	49.7



ケ 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者

「歯や入れ歯、舌などを清潔にすることが誤嚥性肺炎を予防することを知っている者」は、前回(平成21年度)と比してすべての年代で増加した。65歳以上では、ほぼ半数が「知っている」と回答しており、知識の普及が進んでいる。一方、前回(平成21年度)同様、すべての年代で女性の方が男性より知っている割合が高かった。20歳以上で「知っている」者の割合は38.5%で、前回(平成21年度)の31.6%を上回り、「いい歯東京」の目標を達成した。

表 23.24.25 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(性別)

【全体】				【男性】				【女性】			
年齢階級	知っている	知らない	無回答	年齢階級	知っている	知らない	無回答	年齢階級	知っている	知らない	無回答
20-29	159	552	2	20-29	34	230	0	20-29	125	322	2
	22.3%	77.4%	0.3%		12.9%	87.1%	0.0%		27.8%	71.7%	0.4%
30-39	235	856	4	30-39	59	414	1	30-39	176	442	3
	21.5%	78.2%	0.4%		12.4%	87.3%	0.2%		28.3%	71.2%	0.5%
40-49	523	1,296	7	40-49	157	580	3	40-49	366	716	4
	28.6%	71.0%	0.4%		21.2%	78.4%	0.4%		33.7%	65.9%	0.4%
50-59	711	1,029	4	50-59	212	534	2	50-59	499	495	2
	40.8%	59.0%	0.2%		28.3%	71.4%	0.3%		50.1%	49.7%	0.2%
60-69	995	1,261	23	60-69	332	660	10	60-69	663	601	13
	43.7%	55.3%	1.0%		33.1%	65.9%	1.0%		51.9%	47.1%	1.0%
70-79	1,036	974	50	70-79	307	478	12	70-79	729	496	38
	50.3%	47.3%	2.4%		38.5%	60.0%	1.5%		57.7%	39.3%	3.0%
80-	324	293	22	80-	106	150	10	80-	218	143	12
	50.7%	45.9%	3.4%		39.8%	56.4%	3.8%		58.4%	38.3%	3.2%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	394	1,408	6	20-39	93	644	1	20-39	301	764	5
	21.8%	77.9%	0.3%		12.6%	87.3%	0.1%		28.1%	71.4%	0.5%
40-64	1,655	2,933	19	40-64	525	1,434	10	40-64	1,130	1,499	9
	35.9%	63.7%	0.4%		26.7%	72.8%	0.5%		42.8%	56.8%	0.3%
65-	1,934	1,920	87	65-	589	968	27	65-	1,345	952	60
	49.1%	48.7%	2.2%		37.2%	61.1%	1.7%		57.1%	40.4%	2.5%
総計	3,983	6,261	112	総計	1,207	3,046	38	総計	2,776	3,215	74
	38.5%	60.5%	1.1%		28.1%	71.0%	0.9%		45.8%	53.0%	1.2%

図 18 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(年代別)

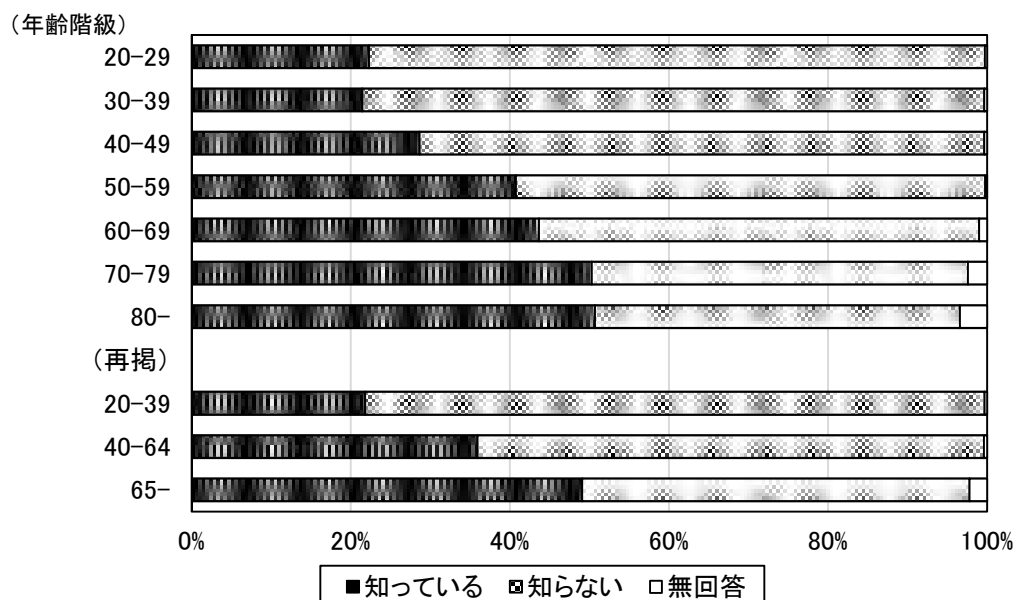
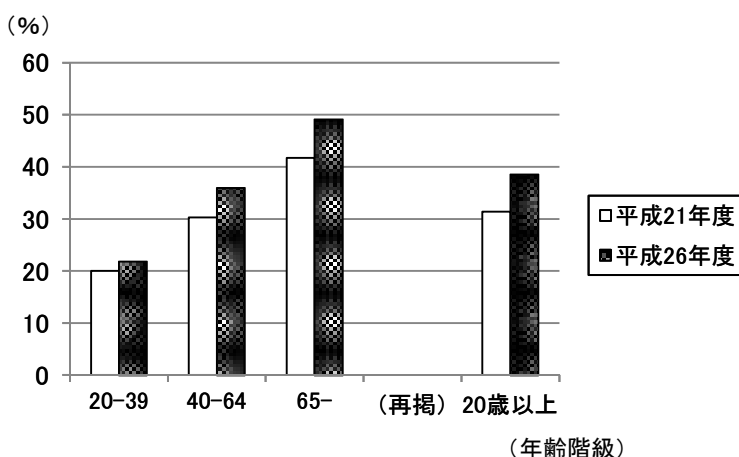


表 26,図 19 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(前回比較)

年齢階級	平成21年度 (%)	平成26年度 (%)
20-39	20.1	21.8
40-64	30.4	35.9
65-	42.3	49.1
(再掲)		
20歳以上	31.6	38.5



コ よく噛む(一口 30 回程度)習慣

普段、「よく噛む(一口 30 回程度)ようにしている」と回答した者は、前回(平成 21 年度)の 39.4%から 38.4%へとわずかに減少した。すべての年代でわずかに減少しているものの、傾向は前回(平成 21 年度)から変わっていない。男女とも減少しており、女性の方が男性よりも「よく噛む者」の割合が高い傾向も前回(平成 21 年度)と同じであった。

65 歳(60~69 歳)で「よく噛む者」の割合は 38.8%で、前回(平成 21 年度)の 41.4%を下回り、「いい歯 東京」の目標を達成しなかった。

表 27,28,29 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(性別)

【全体】 (人)				【男性】 (人)				【女性】 (人)			
年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答	年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答	年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答
20-29	245	466	2	20-29	77	186	1	20-29	168	280	1
	34.4%	65.4%	0.3%		29.2%	70.5%	0.4%		37.4%	62.4%	0.2%
30-39	328	765	2	30-39	120	354	0	30-39	208	411	2
	30.0%	69.9%	0.2%		25.3%	74.7%	0.0%		33.5%	66.2%	0.3%
40-49	613	1,209	4	40-49	213	526	1	40-49	400	683	3
	33.6%	66.2%	0.2%		28.8%	71.1%	0.1%		36.8%	62.9%	0.3%
50-59	593	1,140	11	50-59	226	520	2	50-59	367	620	9
	34.0%	65.4%	0.6%		30.2%	69.5%	0.3%		36.8%	62.2%	0.9%
60-69	884	1,373	22	60-69	361	635	6	60-69	523	738	16
	38.8%	60.2%	1.0%		36.0%	63.4%	0.6%		41.0%	57.8%	1.3%
70-79	985	1,036	39	70-79	370	420	7	70-79	615	616	32
	47.8%	50.3%	1.9%		46.4%	52.7%	0.9%		48.7%	48.8%	2.5%
80-	331	295	13	80-	137	124	5	80-	194	171	8
	51.8%	46.2%	2.0%		51.5%	46.6%	1.9%		52.0%	45.8%	2.1%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	573	1,231	4	20-39	197	540	1	20-39	376	691	3
	31.7%	68.1%	0.2%		26.7%	73.2%	0.1%		35.1%	64.6%	0.3%
40-64	1,588	2,995	24	40-64	600	1,363	6	40-64	988	1,632	18
	34.5%	65.0%	0.5%		30.5%	69.2%	0.3%		37.5%	61.9%	0.7%
65-	1,818	2,058	65	65-	707	862	15	65-	1,111	1,196	50
	46.1%	52.2%	1.6%		44.6%	54.4%	0.9%		47.1%	50.7%	2.1%
総計	3,979	6,284	93	総計	1,504	2,765	22	総計	2,475	3,519	71
	38.4%	60.7%	0.9%		35.1%	64.4%	0.5%		40.8%	58.0%	1.2%

図 20 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(年代別)

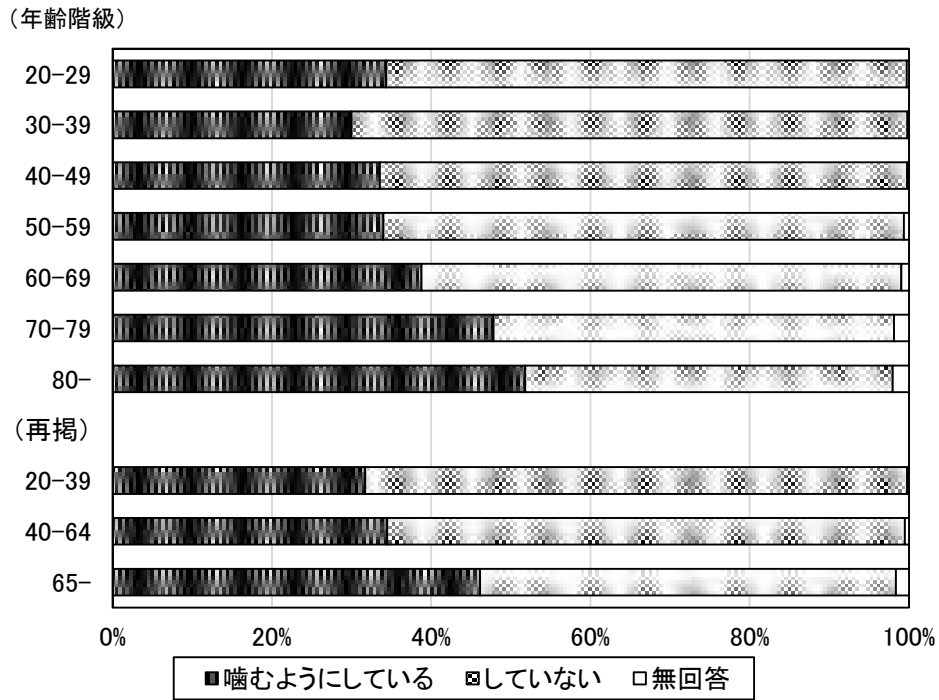
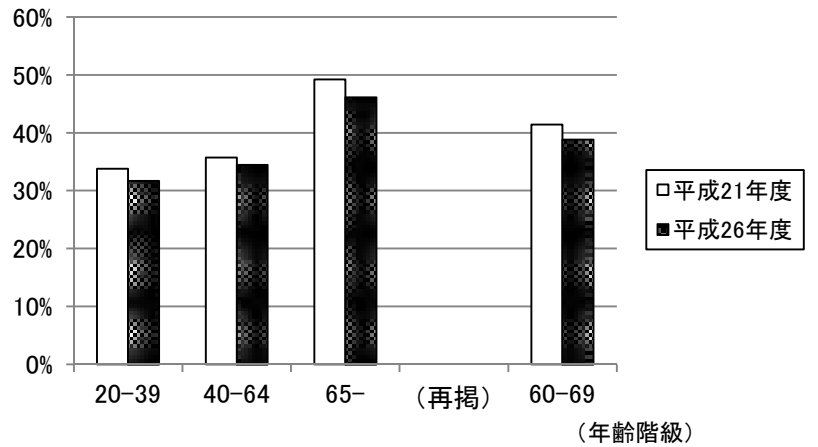


表 30,図 21 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	33.8	31.7
40-64	35.7	34.5
65-	49.2	46.1
(再掲)		
60-69	41.4	38.8



サ 8020を知っている者

「8020運動」という言葉を知っていた」と回答した者は37.2%、「聞いたことがある」と合わせると57.1%であった。前回（平成21年度）は「聞いたことがある」という回答肢がなかったため、「知っている」57.6%と比較しても、概ね同等の結果であったが、「いい歯東京」の目標は達成しなかった。

表 31 8020を知っている者(年代別)

(人)

年齢階級	知っていた	聞いたことがある	合計	知らなかった	無回答
20-29	218	116	334	379	0
	30.6%	16.3%	46.8%	53.2%	0.0%
30-39	355	233	588	506	1
	32.4%	21.3%	53.7%	46.2%	0.1%
40-49	647	394	1,041	781	4
	35.4%	21.6%	57.0%	42.8%	0.2%
50-59	725	374	1,099	641	4
	41.6%	21.4%	63.0%	36.8%	0.2%
60-69	916	432	1,348	924	7
	40.2%	19.0%	59.1%	40.5%	0.3%
70-79	787	403	1,190	840	30
	38.2%	19.6%	57.8%	40.8%	1.5%
80-	201	113	314	308	17
	31.5%	17.7%	49.1%	48.2%	2.7%
(再掲)					
20-39	573	349	922	885	1
	31.7%	19.3%	51.0%	48.9%	0.1%
40-64	1,799	961	2,760	1,838	9
	39.0%	20.9%	59.9%	39.9%	0.2%
65-	1,477	755	2,232	1,656	53
	37.5%	19.2%	56.6%	42.0%	1.3%
総計	3,849	2,065	5,914	4,379	63
	37.2%	19.9%	57.1%	42.3%	0.6%

図 22 8020を知っている者(年代別)

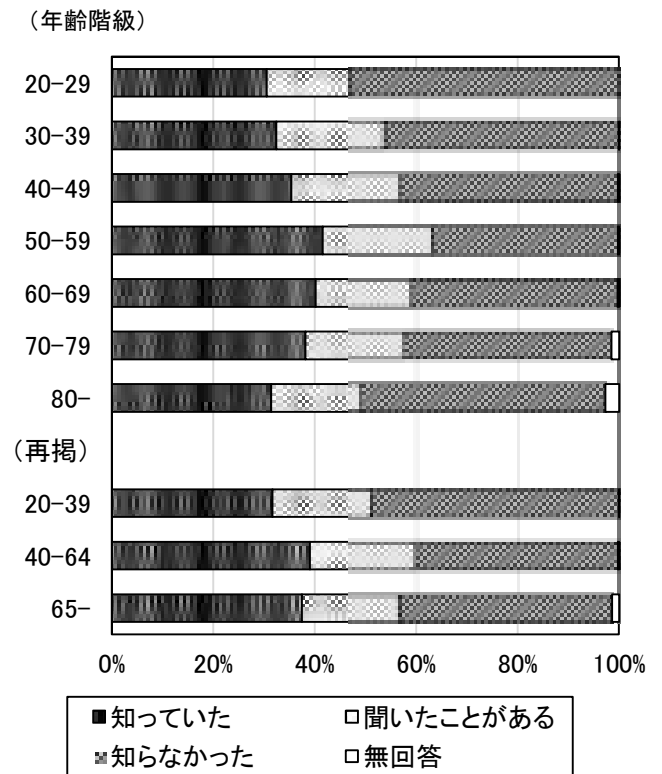
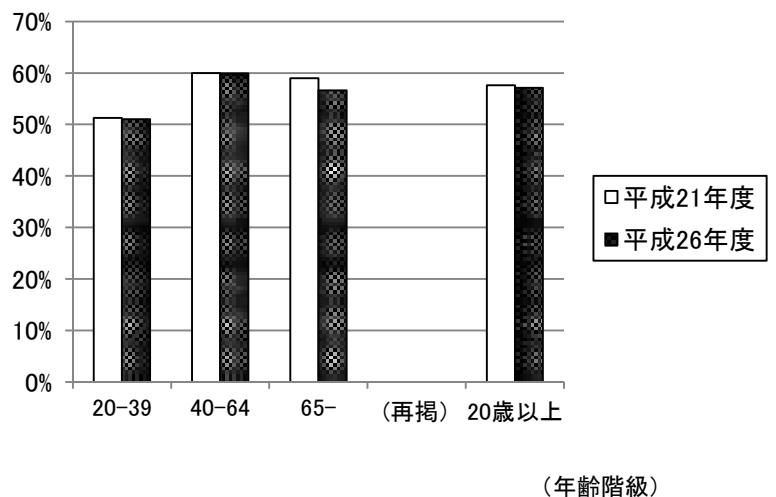


表 32, 図 23 8020を知っている者(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	51.3	51.0
40-64	60.0	59.9
65-	59.0	56.6
(再掲)		
20歳以上	57.6	57.1



4 介護保険施設等における口腔ケア等実態調査

(1) 対象及び方法

都内介護保険施設等の管理者及び都内の訪問看護ステーションの管理者に対し、介護保険施設や訪問看護ステーション等における口腔ケア等の実施状況について質問紙調査を実施した。

(2) 調査結果

ア 調査数

調査対象施設数は、前回(平成21年度)の1,211から1,910と増加しており、回答率も36.4%から56.8%へと上昇した。

イ 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることの認知度(介護保険施設等)

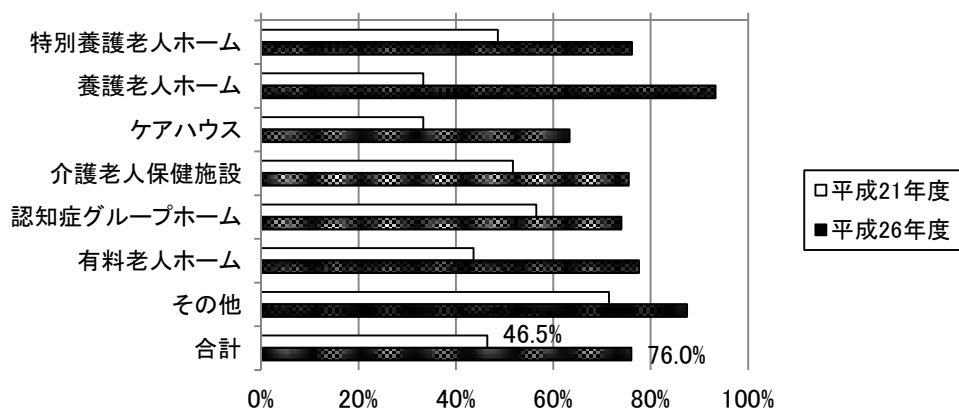
「ほとんど知っている」と回答した施設が76.0%で、前回(平成21年度)の46.5%を大幅に上回り、「いい歯東京」の目標を達成した。最も低いケアハウスにおいても63.3%で、前回(平成21年度)の33.3%の倍近い認知率となった。

表 33 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを知っている程度

(施設)

	全 体	ほとんど 知らない	一部の職員	半数程度	ほとんど 知っている	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	1 0.4%	7 3.0%	46 19.9%	176 76.2%	1 0.4%
養護老人ホーム	15 100%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	14 93.3%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	2 6.7%	4 13.3%	5 16.7%	19 63.3%	0 0.0%
介護老人保健施設	139 100%	0 0.0%	8 5.8%	25 18.0%	105 75.5%	1 0.7%
認知症グループホーム	281 100%	0 0.0%	22 7.8%	51 18.1%	208 74.0%	0 0.0%
有料老人ホーム	380 100%	0 0.0%	21 5.5%	60 15.8%	295 77.6%	4 1.1%
その他	8 100%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	7 87.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	3 0.3%	62 5.7%	189 17.4%	824 76.0%	6 0.6%

図 24 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを知っている割合(前回比較)



**ウ 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無
(訪問看護ステーション)**

「歯科専門職との連携がある」と回答した訪問看護ステーションの割合は、前回（平成 21 年度）の 70.2%から 72.5%へと増加した。

**表 34 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する
歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無**

	全 体	ない	ある	(施設) 無回答
総 数	472	127	342	3
割 合	100%	26.9%	72.5%	0.6%

5 かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査

(1) 対象及び方法

東京都歯科医師会会員 8,067 人を対象とし、質問紙調査を実施した。

(2) 調査結果

ア 調査数

有効回答数は 554 であり、前回(平成 21 年度)と比して、回答者の年代の構成比率は 50 歳代が 38.2% から 40.3%へ、60 歳代が 17.5%から 27.1%へ、40 歳代が 30.2%から 16.6%へと推移しており、年齢層が上がった。

イ かかりつけ歯科医としての取組状況

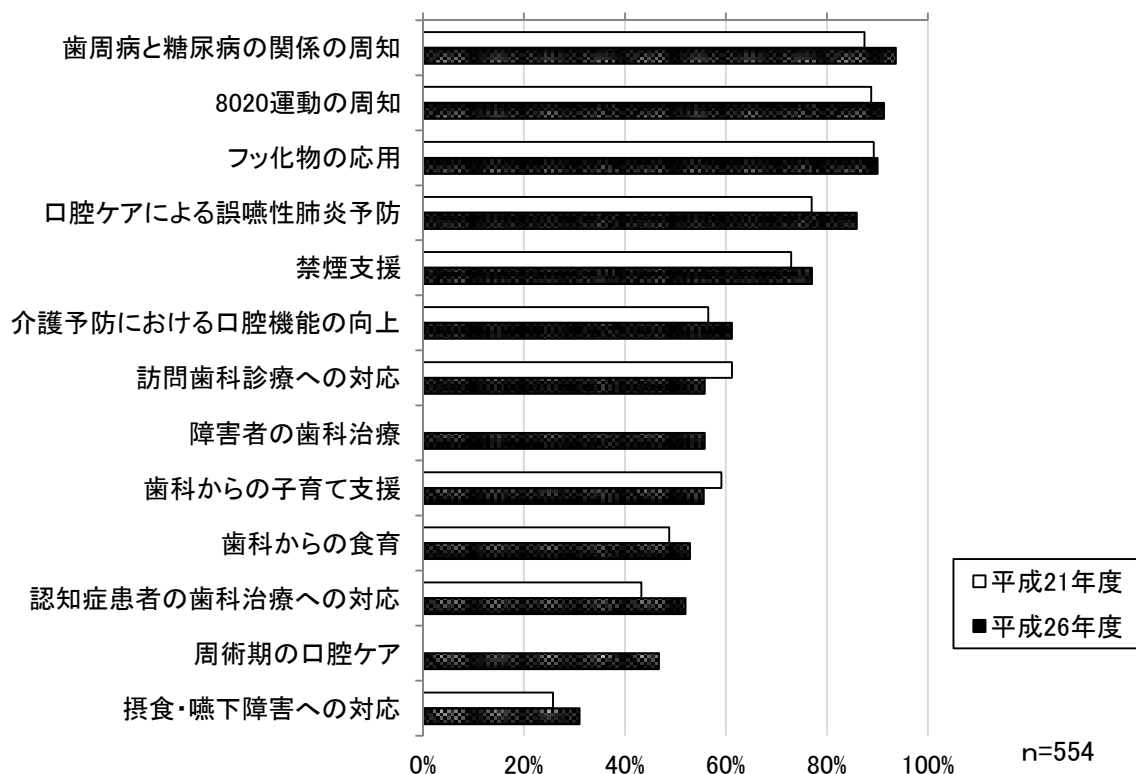
多くの項目について、前回(平成 21 年度)より取り組みが進んだが、「訪問歯科診療への対応」と「歯科からの子育て支援」については、減少した。

表 35 かかりつけ歯科医としての取組状況(前回比較)

	(人)	
	平成 21 年度	平成 26 年度
歯周病と糖尿病の関係の周知	710 87.4%	519 93.7%
8020運動の周知	721 88.8%	506 91.3%
フッ化物の応用	725 89.3%	499 90.1%
口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防	625 77.0%	476 85.9%
禁煙支援	592 72.9%	427 77.1%
介護予防における口腔機能の向上	459 56.5%	339 61.2%
訪問歯科診療への対応	497 61.2%	309 55.8%
障害者の歯科治療	-	309 55.8%
歯科からの子育て支援	480 59.1%	308 55.6%
歯科からの食育	396 48.8%	293 52.9%
認知症患者の歯科治療への対応	351 43.2%	288 52.0%
周術期の口腔ケア	-	259 46.8%
摂食・嚥下障害への対応	209 25.7%	172 31.0%
	n=812	n=554

- は今回調査新規項目

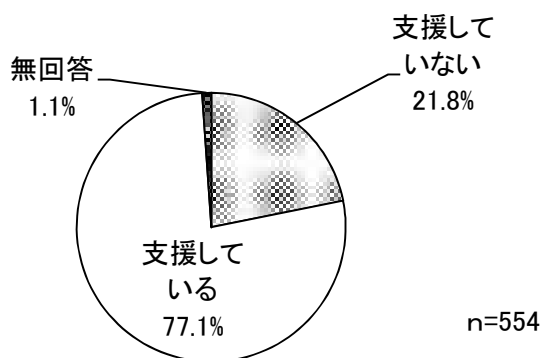
図 25 かかりつけ歯科医としての取組状況(前回比較)



ウ 禁煙支援の取組状況

「禁煙支援を行っている」と回答した施設は、前回(平成21年度)の72.9%から77.1%へと増加した。

図 26 禁煙支援の取組



エ 歯周病と糖尿病の関係の周知への取組状況

歯周病と糖尿病の関係の周知については、「取り組んでいる」との回答が前回（平成 21 年度）の 87.4%から 93.7%へと増加し、周知の方法も「ポスターを掲示」、「リーフレットを配布」、「口頭で内容を指導」、「内科医等に紹介」、「主治医と連携して治療」のすべての項目で増加が認められた。

図27 歯周病と糖尿病の関係の周知

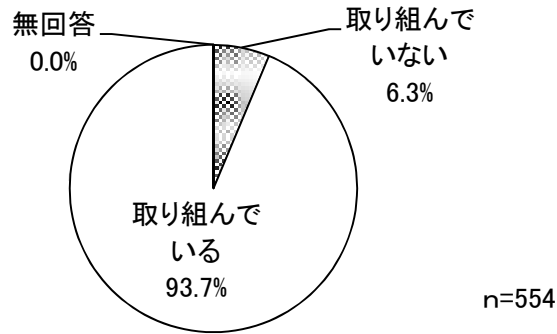
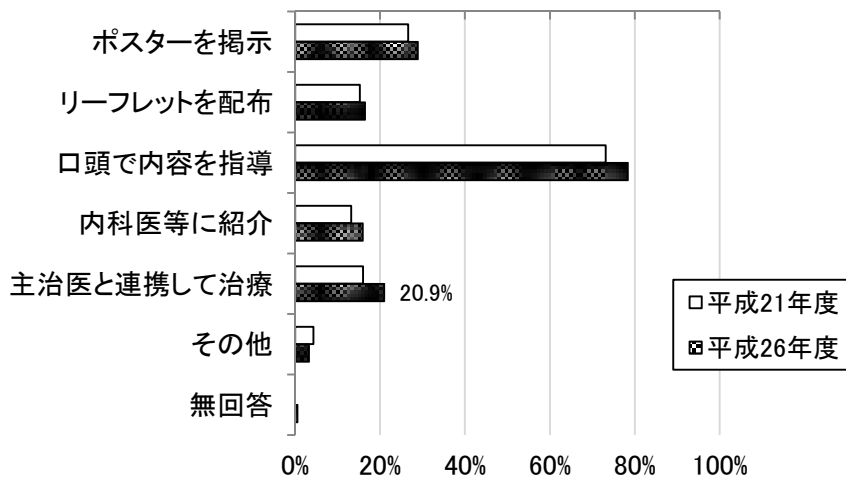


図28 歯周病と糖尿病の関係の周知(前回比較)

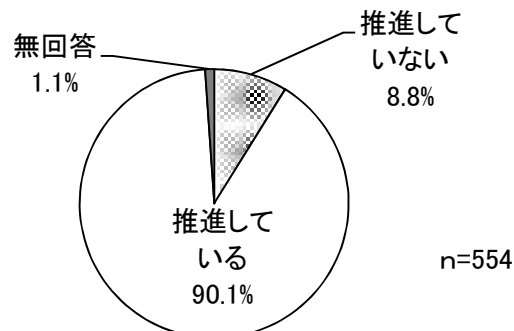


n=519

オ フッ化物の応用への取組

「フッ化物の応用を推進している者」は、前回(平成 21 年度)の 89.3%から 90.1%へと増加した。

図29 フッ化物の応用



カ 歯科からの子育て支援

「気になる親子」等を支援している」との回答は、前回（平成21年度）の59.1%から55.6%へと減少した。取組内容を見ると、「むし歯の多い幼児や「気になる親子」に対し、親身に相談・指導を行っている者」は減少、「気になる親子」に関し、子供家庭支援センターや保健所・保健センター等の行政機関に相談・連絡している者」は微増したものの13.2%にとどまった。

図30 歯科からの子育て支援
「気になる親子」等の支援

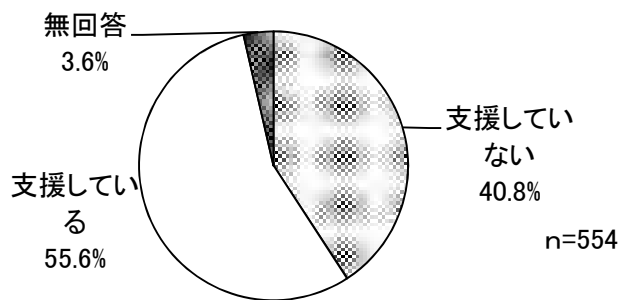
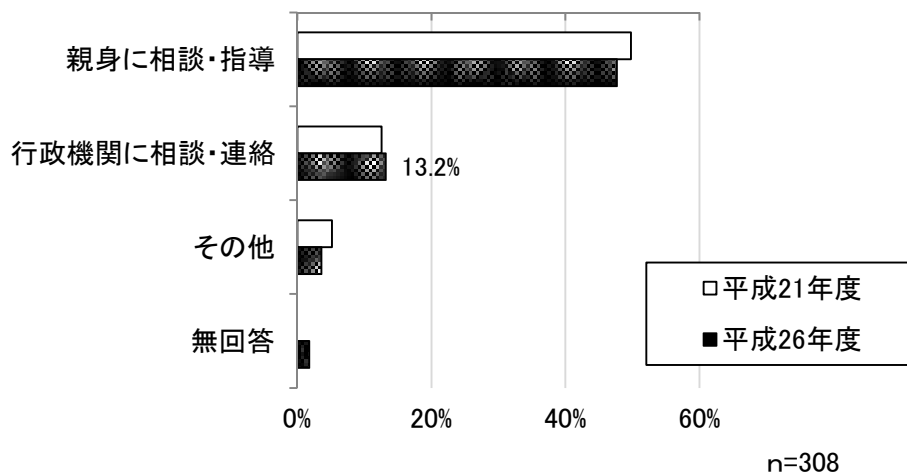


図31 歯科からの子育て支援 取組の方法(前回比較)



6 区市町村における歯科保健医療事業に関する調査

(1) 対象及び方法

都内の 62 区市町村を対象とし、普及啓発、コミュニティーケアとしてのフッ化物応用の推進、先駆的もしくは特に重点を置いている事業について、質問紙調査を実施した。

(2) 調査結果

表 36 区市町村が取り組む普及啓発及びフッ化物応用

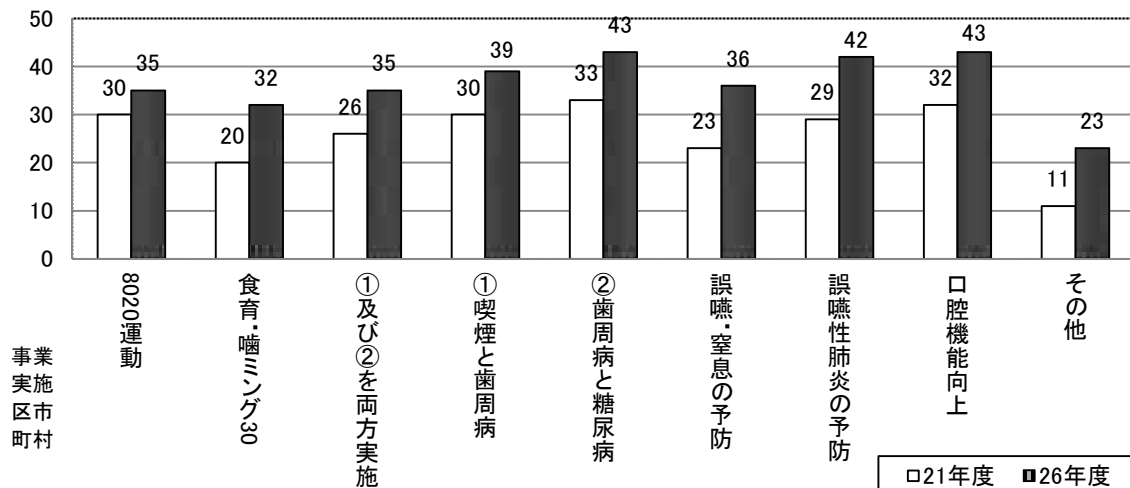
	26年度に普及啓発したテーマ									コミュニティーケアとしてのフッ化物応用推進												
	8020運動	食育・噛ミング30	①及び②を両方実施		①喫煙と歯周病	②歯周病と糖尿病	誤嚥・窒息の予防	誤嚥性肺炎の予防	口腔機能向上	その他	フッ化物歯面塗布				フッ化物洗口(集団応用)					実施状況		
			直接実施	役割分担							委託事業化	協力医療機関一覧作成	その他	事業化について								
														※事業化している(幼児)	※事業化している(児童)	検討したことがある	今後検討したい	必要性が低い	検討したことがない		その他	
21年度	30	20	26	30	33	23	29	32	11	46	29					8	11	0	43		7	
26年度	35	32	35	39	43	36	42	43	23	38	24	14	20	2	3	2	7	3	6	44	1	9

※数字は各テーマに取り組んでいる区市町村数

ア 普及・啓発について

「いい歯東京」の区市町村による健康づくりの指標であった「食育及び噛ミング30」、「糖尿病及び喫煙と歯周病の関連」、「口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防」を推進する区市町村数は順調に増えている。「8020運動」、「誤嚥・窒息の予防」、「口腔機能の向上(地域支援事業によるものを除く。）」、「その他」のそれぞれのテーマで、普及啓発を行ったと回答した区市町村も平成21年度に比べて増えている。

図32 普及啓発したテーマ

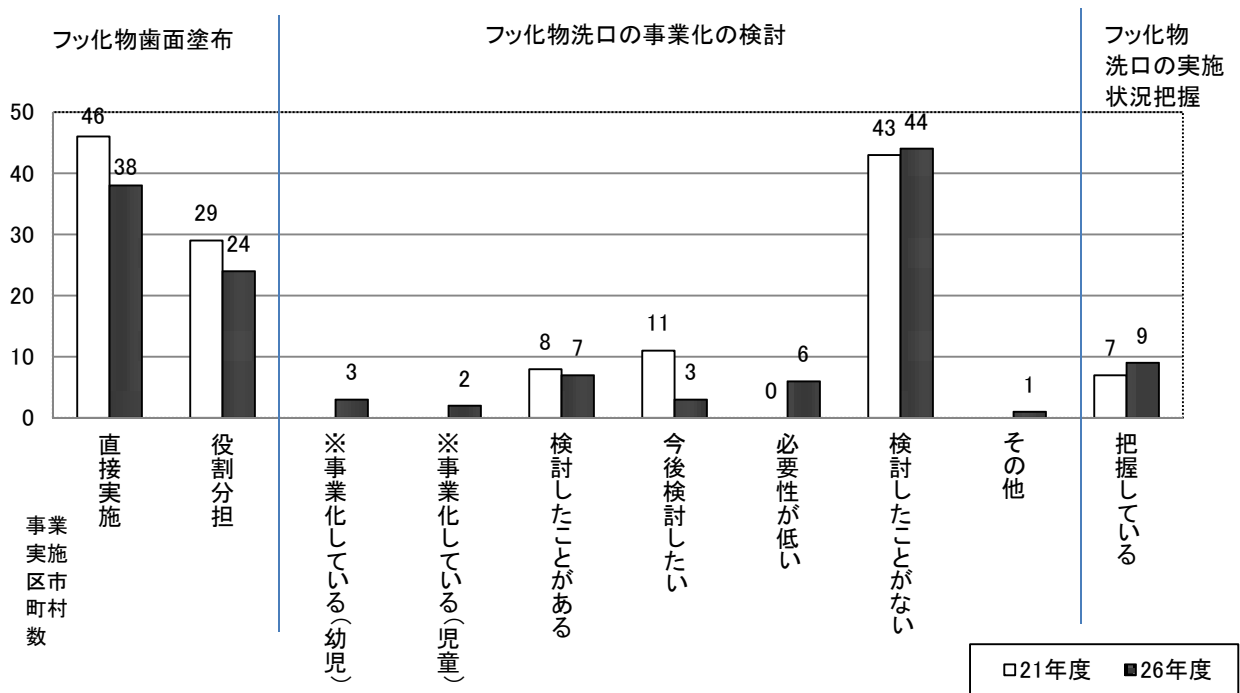


イ コミュニティーケアとしてのフッ化物応用の推進について

フッ化物歯面塗布については、直接実施をする区市町村数が平成21年度に比べて減っている。また、「事業を歯科医師会等に委託する」、「協力医療機関一覧を作成する」などと医療機関と役割分担や連携を行う区市町村も減っている。

フッ化物洗口（集団応用）を事業化している区市町村数は幼児対象が3か所、児童対象が2か所（重複あり）となっており、区市町村包括補助事業（平成21年度は、幼児対象が3か所、児童対象が3か所）として取り組んだ内容が、継続されている区市町村があった。

図 33 フッ化物応用の推進



※平成 26 年度の調査で新たに加えた設問

歯科保健目標「いい歯東京」

- 1 目標期間 : 平成23年度～27年度
- 2 全体目標 : 「歯と口腔の満足度の向上」 歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳以上) 現状 57.9%⇒目標 増やす
 「8020運動の推進」 8020を知っている都民の割合(20歳以上) 現状 57.6%⇒目標 増やす
 8020を達成している都民の割合(80歳) 現状 39.8%⇒目標 50%以上

3 個別目標

現状:平成21年度から22年度にかけて実施した各種調査結果の値

ライフステージと健康づくりのテーマ	都民の健康			都民の知識と行動		
	指標及び対象年齢	現状	目標	指標及び対象年齢	現状	目標
乳幼児期 乳歯のう蝕予防 子育て支援 食育 	う蝕のない者の割合(3歳)*1	83.8%	85.0%	フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合(3歳)*2	55.3%	70%以上
				甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合(3歳)*2	27.8%	20%以下
				週に1回以上、子供の歯と口腔を観察している保護者の割合(3歳)*2	81.3%	90%以上
				かかりつけ歯科医を持つ者の割合(3歳)*2	45.0%	60%以上
学齢期 永久歯のう蝕予防 歯周疾患の予防 食べる機能の健やかな発達 	一人平均歯数(12歳)*3	1.3歯	1歯以下	ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に歯を磨く者の割合(12歳)*2	47.4%	増やす
				かかりつけ歯科医を持つ者の割合(12歳)*2	59.7%	90%以上
				歯肉に炎症所見のある者の割合(12歳)*3	17.6%	減らす
成人期 8020の普及 歯周疾患の予防 歯の喪失の抑制 	進行した歯周病に罹っている者の割合【CPIコード3以上の者の割合】(40歳:35～44歳)*4	20.1%	18%以下	8020を知っている者の割合(20歳以上)*4	57.6%	増やす
				糖尿病・喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合(20歳以上)*4	糖尿病 42.3% 喫煙 54.4%	増やす
				週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者の割合(40歳:35～44歳)*4	62.3%	80%以上
				かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合(40歳:35～44歳)*4	59.6%	70%以上
高齢期 歯と口腔の満足度の向上 8020の実現 	歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳以上)*4	57.9%	増やす	口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている割合(20歳以上の都民・すべての職員が知っている介護保険施設)*4,5	都民 31.6% 施設 46.5%	増やす
				よく噛む(一口30回程度)ようにしている者の割合(65歳:60～69歳)*4	41.4%	増やす
				在宅療養者の摂食・嚥下障害に関して、医師・歯科医師等と連携している訪問看護ステーションの割合*5	67.0%	増やす

都民の健康づくりの推進

かかりつけ歯科医による支援・区市町村による健康づくり		現状
◆かかりつけ歯科医	◇区市町村	
◆子供家庭支援センター等と連携・相談し「気になる親子」を支援する歯科医師の割合*6		12.6%
◇1歳6か月児及び3歳児歯科健康診査実施区市町村数*1		62
◇フッ化物洗口推進事業実施区市町村数(幼児対象)*8		3
◇食育及び噛ミング30を推進する区市町村数*7		20
◆フッ化物応用を推進する歯科医師の割合*6		89.3%
◇フッ化物洗口推進事業実施区市町村数(児童対象)*8		3
◇食育及び噛ミング30を推進する区市町村数*7		20
◆禁煙支援を行う歯科医師の割合*6		72.9%
◆糖尿病患者の主治医と連携して治療する歯科医師の割合*6		16.0%
◇糖尿病及び喫煙と歯周病の関連を普及啓発する区市町村数*7		26
◇歯周疾患検診実施区市町村数*9		48
◆在宅療養者の摂食・嚥下障害に対応可能な歯科医師の割合*6		22.0%
◆在宅療養支援歯科診療所届出数*10		269
◇口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防を普及啓発する区市町村数*7		29
◇摂食・嚥下機能支援事業実施区市町村数*9		1

東京都による基盤整備	東京都歯科保健対策推進協議会 東京の歯科保健(資料集)発行	歯科保健普及啓発事業 医学技術振興事業	東京都8020運動推進特別事業 都立心身障害者口腔保健センター事業	保健所歯科保健推進事業 医療保健政策区市町村包括補助事業	歯周疾患改善指導事業 在宅歯科診療設備整備事業
------------	----------------------------------	------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	----------------------------

《資料》 *1:3歳児歯科健康診査結果(平成21年度)
 *2:幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査(平成21年度)
 *3:東京都の学校保健統計書(平成21年度)
 *4:東京都歯科診療所患者調査(平成21年度)
 *5:介護保険施設等における口腔ケア実態状況調査(平成21年度)
 *6:かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査(平成21年度)
 *7:区市町村における歯科保健医療事業に関する調査(平成21年度)
 *8:医療保健政策区市町村包括補助事業 先駆的事業例示事業(平成22年11月1日現在)
 *9:健康増進事業実績(平成21年度) *10:平成22年11月1日現在

東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況について

達成状況のまとめ

「う蝕のない者の割合（3歳）」は87.4%、「一人平均う歯数（12歳）」は0.93歯、「24歯以上有する者の割合（60歳）」は70.0%、「8020を達成している都民の割合（80歳）」54.7%となり、口腔内の状況はすべての年齢層で向上し、目標を達成した。

一方、「歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合（80歳）」の割合は目標値に及ばなかったが、歯や口腔の満足度のうち「噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がない者」は増加したことから、口腔機能に関する満足度は向上していることがうかがえる。

全体目標の達成状況

全体目標のうち、「80歳で自分の歯を20本以上持つ者の割合（8020達成者）」は54.7%であり、目標の「50%以上（基準値：39.8%）」を達成した。また、前回調査（平成21年度）よりも14.9ポイント増加した。

一方、「歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合（80歳以上）」は54.8%であり、目標の「増やす（基準値：57.9%）」には、及ばなかった。「8020を知っている都民の割合（20歳以上）」も57.1%であり、目標の「増やす（基準値：57.6%）」には、やや及ばなかった。

個別目標の達成状況

それぞれのライフステージにおける口腔内の状況については、目標を達成した。特に、「60歳で自分の歯を24本以上持つ者の割合」は前回調査よりも

6.6ポイント増加し、8020達成者の割合の結果と合わせ、高齢者の口腔内の状況は向上した。

一方、それぞれのライフステージにおける都民の知識と行動の目標については、目標を達成した項目が半数に満たなかった。

歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況

		事項	基準値※1	目標	現状値※2	出典
全体目標	「歯と口腔の満足度の向上」	歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳以上)	57.9%	増やす	54.8%	歯科診療所患者調査
	「8020運動の推進」	8020を知っている都民の割合(20歳以上)	57.6%	増やす	57.1%	
		8020を達成している都民の割合(80歳)	39.8%	50%以上	54.7%	
個別目標	幼児期	う蝕のない者の割合(3歳)	83.8%	85.0%	87.4%	3歳児歯科健康診査実績(H25)
		フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合(3歳)	55.3%	70%以上	66.8%	幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査
		甘味飲料をほぼ毎日飲む者の割合(3歳)	27.8%	20%以下	26.0%	
		週に1回以上、子供の歯と口腔を観察している保護者の割合(3歳)	81.3%	90%以上	81.2%	
		かかりつけ歯科医を持つ者の割合(3歳)	45.0%	60%以上	48.5%	
	学齢期	一人平均歯数(12歳)	1.3歯	1歯以下	0.93歯	東京都の学校保健統計(H25)
		歯肉に炎症所見のある者の割合(12歳)	17.6%	減らす	17.3%	幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査
		ほぼ毎日、1本ずつ丁寧に歯を磨く者の割合(12歳)	47.4%	増やす	53.1%	
		かかりつけ歯科医を持つ者の割合(12歳)	59.7%	90%以上	57.6%	
		ゆっくりよく噛んで食べるようにする者の割合(9歳)	59.8%	増やす	59.3%	
	成人期	進行した歯周病に罹っている者の割合【CPIコード3以上の者の割合】(40歳:35~44歳)	20.1%	18%以下	19.3%	歯科診療所患者調査
		24歯以上有する者の割合(60歳:55~64歳)	63.4%	70%以上	70.0%	
		8020を知っている者の割合(20歳以上)	57.6%	増やす	57.1%	
		糖尿病・喫煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合(20歳以上)	糖尿病 42.3%	増やす	49.7%	
			喫煙 54.4%	増やす	54.2%	
週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者の割合(40歳:35~44歳)		62.3%	80%以上	62.0%		
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合(40歳:35~44歳)	59.6%	70%以上	71.9%			
高齢期	歯・口の状態についてほぼ満足している者の割合(80歳以上)	57.9%	増やす	54.8%	介護保険施設等における口腔ケア実態状況調査	
	8020の達成者の割合(80歳)	39.8%	50%以上	54.7%		
	口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている割合(20歳以上の都民・すべての職員が知っている介護保険施設) <small>→H26は、「ほとんどの職員」が知っている</small>	都民 31.6%	増やす	38.5%		
		施設 46.5%	増やす	76.0%		
	よく噛む(一口30回程度)ようにしている者の割合(65歳:60~69歳)	41.4%	増やす	38.8%		
	在宅療養者の摂食・嚥下障害に関して、医師・歯科医師等と連携している訪問看護ステーションの割合	67.0%	増やす	72.5%		

※1 基準値は、21年度の調査結果

※2 現状値は、26年度の調査結果または25年度実績

かかりつけ歯科医による支援・区市町村による健康づくりの状況

		基準値※1	現状値※2	出典
かかりつけ歯科医による支援	子供家庭支援センター等と連携・相談し「気になる親子」を支援する歯科医師の割合	12.6%	13.2%	かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査
	フッ化物応用を推進する歯科医師の割合	89.3%	90.1%	
	禁煙支援を行う歯科医師の割合	72.9%	77.1%	
	糖尿病患者の主治医と連携して治療する歯科医師の割合	16.0%	20.9%	
	在宅療養者の摂食・嚥下障害に対応可能な歯科医師の割合	22.0%	31.0%	
	在宅療養支援歯科診療所届出数	269	478	関東信越厚生局届出受理医療機関名簿(H27、1月末)
区市町村による健康づくり	1歳6か月児及び3歳児歯科健康診査実施区市町村数	62	62	1.6歳児、3歳児歯科健康診査結果(H25)
	フッ化物洗口推進事業実施区市町村数(幼児対象)*	3	3	区市町村における歯科保健医療事業に関する調査
	食育及び噛ミング30を推進する区市町村数	20	32	
	フッ化物洗口推進事業実施区市町村数(児童対象)*	3	2	
	糖尿病及び喫煙と歯周病の関連を普及啓発する区市町村数	26	35	
	歯周疾患検診実施区市町村数	48	50	健康増進事業実績(H25)
	口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防を普及啓発する区市町村数	29	42	区市町村における歯科保健医療事業に関する調査
	摂食・嚥下機能支援事業実施区市町村数	1	7	医療保健政策区市町村包括補助事業実績

*フッ化物洗口推進事業は区市町村包括補助事業のため、現状(平成26年度)は継続して独自で事業化しているものも含む。